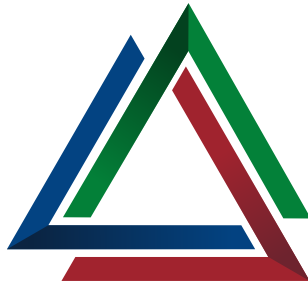


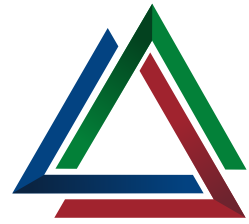
調 査 リ ポ ー ト



日 中 韓 地 方 都 市
ト ラ イ ア ン グ ル 交 流
2 0 2 0

本調査内容は、[日中韓三国協力事務局ホームページ（www.tcs-asia.org）](http://www.tcs-asia.org)にて、日・中・韓・英の4言語でご覧いただけます。





日中韓地方都市
トライアングル交流2020

刊行によせて

このたび、日中韓三国協力事務局（TCS）より、調査レポート「日中韓地方都市トライアングル交流2020」を刊行する運びとなり、うれしく思います。本件調査レポートは、3国間の地方都市交流の先行事例とノウハウに関して、不足していた情報の空白を埋め、日中韓の地方レベルでの交流活性化の一助とすべく、昨年初めて刊行いたしました。今般出版した2020年版では、直近1年間の交流状況を反映し、それ以前の事例に関してもさらに充実した情報を追加しています。また、当事務局ホームページに、調査結果が分かりやすくご覧いただける「日中韓地方政府交流」データベースページを新設いたしました。2019年版に続き、今般の調査・作成にあたって、多くの地方政府及び関係機関・団体より支援を賜りました。ここに深く御礼申し上げます。

1999年に開催された第3回ASEAN+3首脳会談の際にはじめて日中韓首脳の朝食会が行われて以来、3国の政府は20年間、政府及び民間部門の協力を大いにおし進めてきました。2008年からはASEAN+3首脳会議から独立し、日中韓の枠組みで首脳会議が開催され、現在は外交、経済、防災、環境、保健、文化、教育等の21分野で大臣級の会合が実施されています。地方民間レベルにおいても、幅広い分野での交流が実施されています。観光や青少年交流を通じて、人的交流も拡大し、2018年には日中韓相互の訪問者数が初めて3000万人を突破しました。2019年12月に開催された第8回日中韓サミットでは成果文章「次の10年に向けた3か国協力に関するビジョン」が採択され、2030年までを見据えた協力の土台が構築されました。

現在、新型コロナウイルスの影響により、日中韓を含む世界各国が大きな困難に直面しています。同時に、この困難に立ち向かう3国の努力からもわかるように、危機の時こそ、3国協力の実務的ニーズがひとときわ高いと言えるのです。3国間の交流と協力を支えるのは、国民一人ひとりであり、国民の生活の拠点である地域社会のレベルでの交流と相互理解の促進が極めて重要です。

当事務局は、3国の中央政府間の協力だけでなく、地方・民間協力の取り組みを引き続き応援していきたいと考えています。本件調査レポートを通じて、日中韓の地方レベルの交流の事例がより多くの人に共有され、交流がさらに深まることを願います。

道上尚史

日中韓三国協力事務局 事務局長



日中韓三国協力事務局の紹介

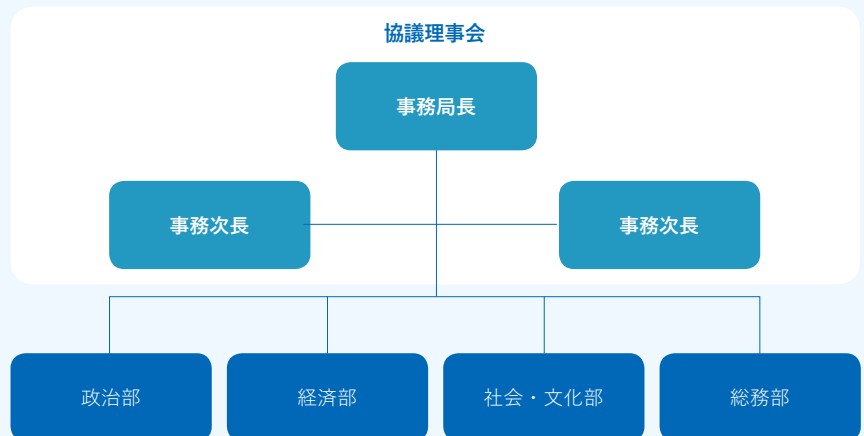
日中韓三国協力事務局（Trilateral Cooperation Secretariat: TCS）は北東アジア地域の平和と安定、繁栄を促進するために設立された国際機関です。日本、中国、韓国の三政府が共同で署名し批准した協定に基づき、2011年9月にソウルに設立されました。三国の平等性を基本とし、各国政府が事務局運営予算を分担しています。

TCSの目的は、三国間の協議の仕組みを運営し及び管理するための支援を提供し、並びに協力案件の探求及び実施を促進するとにより、三国間の協力関係のさらなる促進に寄与することです。

主な機能

- 日中韓首脳会議、日中韓外相会議、その他の閣僚会議等に対して支援を提供し、並びに必要な応じて主要な協議の仕組みにその代表を参加させること
- 三政府、及び必要な応じて他の国際機関、特に他の東アジアの協力のための仕組みとの連絡及び調整を行うこと
- 三政府間の潜在的な協力案件を探求し及び特定し、並びにこれらの案件を採択するために関連する協議の仕組みに報告すること
- 協力案件を評価し及びこれらの案件に関する報告書を作成し、必要な文章をデータベースに収集し、並びに年次進捗報告を作成すること
- 日中韓協力に関連する重要事項に関する調査を行い、事務局のウェブサイトを運営し、及び日中韓協力についての理解を促進すること

組織構成



協議理事会

協議理事会は事務局の最高意思決定機関であり、各国から2年ごとに持ち回りで任命される事務局長(Secretary-General)1名および事務次長(Deputy Secretary-General)2名で構成されています。

第5期協議理事会 2019年9月—2021年8月

事務局長	日本	道上尚史
事務次長	中国	曹静（そう・せい）
事務次長	韓国	姜度好（カン・ドホ）

部署

三国政府から派遣された部長および各国から公募形式で選抜されたプログラム・オフィサーで4つの部署が構成されています。

政治部

- ・外交
- ・安全保障
- ・地域情勢
- ・国際情勢
- ・防災
- ・シンクタンク・ネットワーク
- ・公共外交
- ・渉外

経済部

- ・貿易・投資
- ・運輸・物流
- ・税関
- ・知的財産権 (IPR)
- ・情報通信技術 (ICT)
- ・財政・金融
- ・科学技術
- ・標準化
- ・エネルギー
- ・消費者対策
- ・環境保護
- ・農業
- ・水資源
- ・森林・林業

社会・文化部

- ・文化
- ・青少年交流
- ・メディア交流
- ・教育
- ・保健・福祉
- ・観光
- ・地方自治体交流
- ・人事行政
- ・スポーツ

総務部

- ・企画・調整
- ・人事
- ・行政・法務支援
- ・予算・会計業務
- ・文書管理
- ・ウェブサイト
- ・SNS管理

沿革

- 1999.11 **三国協力のはじまり**
第3回ASEAN+3サミットの際、初の日中韓首脳朝食会開催（フィリピン・マニラ）
- 2008.12 **三国協力の制度化**
ASEAN+3首脳会議という枠組みから独立し、第1回日中韓サミットを開催（日本・福岡）
- 2009.10 **三国協力のための常設事務局の必要性を確認**
第2回日中韓サミットで、三国協力のための常設事務局設置の必要性について合意（中国・北京）
- 2010.05 **「三者間協力事務局の設置に関する覚書」**
第3回日中韓サミットで、「三者間協力事務局の設置に関する覚書」を発表（韓国・済州）
- 2010.12 **「三者間協力事務局の設立に関する協定」**
三国政府が「三者間協力事務局の設立に関する協定」に署名（韓国・ソウル）
- 2011.09 **TCS開設・TCS開設記念式典**（韓国・ソウル）
- 2012.05 **TCSが第5回日中韓サミットに参加**（中国・北京）
- 2015.11 **TCSが第6回日中韓サミットに参加**（韓国・ソウル）
- 2016.09 **TCS設立5周年記念レセプション**（韓国・ソウル）
- 2018.05 **TCSが第7回日中韓サミットに参加**（日本・東京）
- 2019.12 **TCSが第8回日中韓サミットに参加**（中国・成都）

目次

刊行によせて	1
日中韓三国協力事務局の紹介	2
編集にあたって	5
日中韓地方都市交流の事例概観	6
英文略称一覧	8
第1章 3都市・地域間の交流	9
唐津市（日）－揚州市（中）－麗水市（韓）	10
鳥取県（日）－吉林省（中）－江原道（韓）	12
東京都（日）－北京市（中）－ソウル特別市（韓）	16
北九州市（日）－大連市（中）－仁川広域市（韓）	19
神奈川県（日）－遼寧省（中）－京畿道（韓）	24
山口県（日）－山東省（中）－慶尚南道（韓）	28
石川県（日）－江蘇省（中）－全羅北道（韓）	31
佐渡市（日）－漢中市（中）－昌寧郡（韓）	33
厚木市（日）－臨沂市（中）－軍浦市（韓）	36
金沢市（日）－蘇州市（中）－全州市（韓）	38
横浜市（日）－泉州市（中）－光州広域市（韓）	40
東京都目黒区（日）－北京市東城区（中）－ソウル特別市中浪区（韓）	45
新潟市（日）－青島市（中）－清州市（韓）	49
奈良市（日）－寧波市（中）－済州特別自治道（韓）	54
長崎県（日）－上海市（中）－釜山広域市（韓）	61
京都市（日）－長沙市（中）－大邱広域市（韓）	63
金沢市（日）－ハルビン市（中）－釜山広域市（韓）	68
東京都豊島区（日）－西安市（中）－仁川広域市（韓）	70
北九州市（日）－揚州市（中）－順천시（韓）	72
愛媛県（日）－山西省（中）－慶尚北道（韓）	73
第2章 3国の地方都市交流メカニズムと行事	75
東アジア文化都市	76
日中韓3か国地方政府交流会議	82
東アジア経済交流推進機構（OEAED）	84
環黄海経済・技術交流会議	89
韓日中公務員3国協力ワークショップ	91
協力機関	93
その他TCS出版物	94

編集にあたって

- 本冊子のタイトルは、「日中韓地方都市トライアングル交流」ですが、市レベルだけでなく、県（日）・省（中）・道（韓）や区レベルの交流も含まれています。また、姉妹／友好都市を基盤とした民間団体、学校、図書館、博物館等の関係機関が独自で実施している交流事例についても紹介しています。
- 本冊子に記された国名の順序は、日本語版においては日本の都市・地域を先頭とし、日中韓の順としています。中国語及び韓国語版においては、それぞれの国の都市・地域を先頭とし、2番目以降はその国で一般的に用いられている国名順としています。ただし、トライアングルの図の配置は、行事の開催順序、中心的役割の都市・地域の存在などを考慮に入れつつ、日中韓版共通の配列にしてあります。また、第1章内の各都市グループの掲載順序は、原則として、3都市としての交流開始年を参考としています。
- 姉妹都市や友好都市の呼称については、同一の都市同士の関係に対しても、片方の国では「姉妹都市」と呼び、相手国では「友好都市」と呼ぶ事例が多くあります。日本語版にあたっては、日韓及び日中の都市関係については、日本における表記のみ記載しました。一方、中国と韓国における都市関係において、「姉妹都市」「友好都市」と異なる呼称を用いている場合、日本語版においては、中立性を保つため、「姉妹／友好都市」と表記しています。
- 情報の分量、交流事業の規模や数によって、各都市グループにつき最大7ページまで用いています。
- 本調査レポートは、日中韓3国のメカニズムに限定しています。紙面の都合上、それ以外の国を含むメカニズムしかない場合については取り上げていません。また、2020年の調査レポート作成時点で過去に交流を行っていたが、現在継続していない日中韓交流都市については、本冊子の掲載対象外としています。
- 本調査レポートは、2020年8月1日時点の情報に基づいています。したがって、それ以降の行事は、予定情報となります。東アジア文化都市（76ページ参照）の各都市の交流事業については、同都市に指定された当該年においては、極めて多くの事業を実施しているため、スペースの関係上、調査範囲を当該年の翌年以降のフォローアップ交流事業に焦点を絞って掲載しています。
- 本冊子に掲載された日中韓の地方都市事業の事例は、必ずしも現存するすべての事例を網羅したものではない可能性があります。これ以外の日中韓地方都市間交流のグループや事例についてご存じの場合は、下記宛にお知らせ頂ければ幸いです。tler@tcs-asia.org

日中韓地方都市交流の事例概観

本冊子で紹介する20の都市間交流グループの事例を類型化すると、以下のとおりとなる。

1

国家別

現在、日中韓交流事業を運営している国別の自治体は以下の通りである。自治体1地域で複数の交流都市グループに参加している場合があるため、下の数字は交流都市グループ全体と一致しない。

- (1) 日本：18か所（1都、6県、9市、2区）
- (2) 中国：19か所（5省、13市、1区）
- (3) 韓国：18か所（6道、10市、1郡、1区）

2

交流の背景

- (1) 主として姉妹都市・友好都市・交流協力協定等の締結に伴う交流：13組
- (2) 東アジア文化都市の縁に伴う交流：7組（2014～2020年）
⇒ 今後も年間1組ずつ増加する。

3

交流分野

1事業が2分野の要素を有する場合や、1つの都市グループが複数の事業を行っている場合もあるため、合計の数字は都市グループ数と一致しない。相対的に、経済や環境などよりも、文化、スポーツ等を通じた国民間の相互理解を重視した交流事業が多い点が特徴である。

- (1) 青少年交流：10組
- (2) 文化交流：8組
- (3) 囲碁：3組
- (4) 経済：2組
- (5) スポーツ競技：3組
- (6) 博物館：2組
- (7) 図書館：1組
- (8) 環境（トキの保護活動含む）：2組
- (9) 観光：1組
- (10) 高齢化：1組

4

交流対象（世代別）

1つの交流都市グループが複数の事業を運営している場合があるため、下の数字は交流都市グループ全体の合計と一致しない。多くの交流事業の参加対象は成人であり、青少年交流の場合は中高生以上が多い。

- (1) 小学生：1組
- (2) 中学生：1組
- (3) 高校生：4組
- (4) 中高生混合：3組
- (5) 大学生、大学院生：3組
- (6) 社会人：18組
 - － 文化人や競技者等が中心：12組
 - － 公務員等実務者が中心：4組
 - － 官民共同（企業や有識者がフォーラム等に参加）：2組

5

地方政府交流の規模

20個の交流都市グループ中、半分は市・郡間の交流に属する。

- (1) 県省道単位：5組
- (2) 市・郡単位：10組
- (3) 区単位：1組
- (4) 上記(1)と(2)の混合：3組
- (5) 上記(2)と(3)の混合：1組

6

交流の開始年

90年代末及び2015年以降に開始が多くみられる。初めての日中韓首脳会合も前者の時期（99年）に行われている。2015年以降の開始が多い理由は、東アジア文化都市として毎年1組ずつ増加しているためである。多くの文化都市が現在まで交流を継続している。

- (1) 1994年以前：1組
- (2) 1995年～1999年：4組
- (3) 2000年～2004年：2組
- (4) 2005年～2009年：1組
- (5) 2010年～2014年：3組
- (6) 2015年～2020年：9組

7

交流開催の場所：日中韓の「持ち回り」・毎回同じ都市

3都市・地域間が平等な貢献度で継続する交流事業は、東アジア文化都市フォローアップ事業を除き、大部分持ち回り開催となっている。東アジア文化都市フォローアップ事業の場合は、多くの都市で青少年交流や文化交流の事業のいずれか又は両方を毎年行い、それにパートナー都市等が参加する形になっており、現在においては、3年周期などの「持ち回り開催」の形態はみられない。

- (1) 持ち回り開催：12組
- (2) 毎回同じ都市：8組
 - － うち、東アジア文化都市：7組
 - － それ以外：1組

英文略称一覽

ACCF	Asia Culture City Forum
AIR	Artist In Residence
APT	ASEAN Plus Three
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations
ASEM	Asia–Europe Meeting
BESETO	Beijing-Seoul-Tokyo
BITF	Busan International Travel Fair
CLAIR	Council of Local Authorities for International Relations
CPAFFC	The Chinese People's Association for Friendship with Foreign Countries
EATOF	East Asia Inter-Regional Tourism Forum
FINA	Fédération Internationale de Natation
GAOK	Governors Association of Korea
ICT	Information and Communications Technology
InXiTo	Incheon-Xi'an-Toshima
IPR(s)	Intellectual Property Right(s)
JITC	Jeju International Training Center
KYOTO STEAM	Kyoto Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics
MERS	Middle East Respiratory Syndrome
MOU	Memorandum of Understanding
NYK	Nippon Yusen Kaisha
OEAED	The Organization for the East Asia Economic Development
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development
SDGs	Sustainable Development Goals
TCS	Trilateral Cooperation Secretariat
TPO	Tourism Promotion Organization for Asia Pacific Cities
UNITAR	United Nations Institute for Training and Research
WTIS	World Tourism Investment Summit

第1章

3 都市・地域間の交流

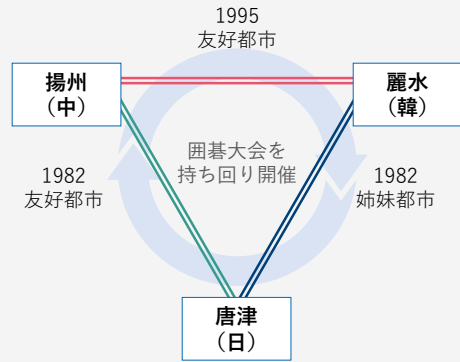


からっ 唐津市（日） — ようしゅう 揚州市（中） — ヨス 麗水市（韓）

1999年から続く親善囲碁交流

佐賀県唐津市（日本）、江蘇省揚州市（中国）、全羅南道麗水市（韓国）の交流は、唐津市が1982年に揚州市と友好都市を締結したことにさかのぼる。同年3月に麗水市と姉妹都市協定を締結をした。その後、1993年から3市間で市長会議が実施され、揚州市と麗水市も1995年に友好提携協定締結を行い、トライアングルの構図が完成した。

この関係を土台として、1999年より3市による国際交流都市囲碁大会がスタートし、現在に至っている。現在まで継続している日中韓地方交流の中で、最も歴史が長い事例の一つである。なお、揚州市は、北九州市（日本）、順천시（韓国）とともに東アジア文化都市2020に選定されている。



1999年～：3市による親善囲碁大会

「日中韓友好姉妹都市囲碁交流大会」は、囲碁大会を通じて、唐津市・揚州市・麗水市の三都市の文化交流を深め、市民間の理解と友好増進を図るものため、1999年から始まった。3市の持ち回りで毎年実施し、日中韓合わせて30人前後が参加している。2018年には20回目の節目を迎えた。20年以上にわたり、1度も中断せず毎年実施されている点が注目される。



第21回日中韓友好姉妹都市
囲碁交流大会

写真提供
唐津市

これまでの開催実績

回	開催都市 (国)	開催日
第1回	揚州市 (中)	1999年7月5日 (月) ~11日 (日)
第2回	麗水市 (韓)	2000年5月3日 (水) ~6日 (土)
第3回	唐津市 (日)	2001年6月29日 (金) ~7月2日 (月)
第4回	揚州市 (中)	2002年11月15日 (金) ~19日 (火)
第5回	麗水市 (韓)	2003年10月16日 (木) ~20日 (月)
第6回	唐津市 (日)	2004年8月6日 (金) ~8日 (日)
第7回	揚州市 (中)	2005年6月26日 (日) ~29日 (水)
第8回	麗水市 (韓)	2006年10月25日 (水) ~28日 (土)
第9回	唐津市 (日)	2007年8月28日 (火) ~31日 (金)
第10回	揚州市 (中)	2008年10月17日 (金) ~20日 (月)
第11回	麗水市 (韓)	2009年9月17日 (木) ~19日 (土)
第12回	唐津市 (日)	2010年8月23日 (月) ~26日 (木)
第13回	揚州市 (中)	2011年10月21日 (金) ~24日 (月)
第14回	麗水市 (韓)	2012年10月18日 (木) ~20日 (土)
第15回	唐津市 (日)	2013年8月29日 (木) ~31日 (土)
第16回	揚州市 (中)	2014年10月16日 (木) ~19日 (日)
第17回	麗水市 (韓)	2015年11月29日 (木) ~31日 (土)
第18回	唐津市 (日)	2016年11月11日 (金) ~13日 (日)
第19回	揚州市 (中)	2017年11月6日 (月) ~9日 (木)
第20回	麗水市 (韓)	2018年11月15日 (木) ~17日 (土)
第21回	唐津市 (日)	2019年11月9日 (土) ~10日 (日)
第22回	揚州市 (中)	2020年10または11月中 [予定]

とっとり 鳥取県 (日) — きつりん 吉林省 (中) — カンウォンド 江原道 (韓)

3 県省道、経済を中心に周辺地域と積極的に交流

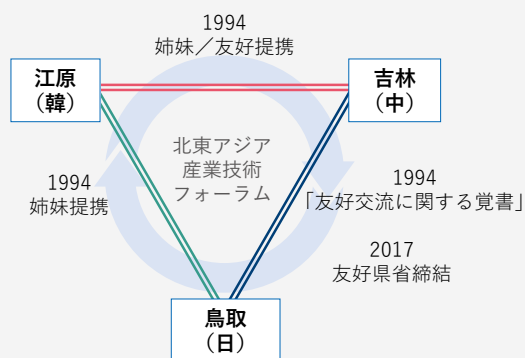
鳥取県（日本）、吉林省（中国）、江原道（韓国）の3県省道は、地域経済圏構想の設立を目的として、1990年代から周辺のロシア、モンゴル等とともに、交流を深めている。

三県省道での交流は、吉林省及び江原道が1994年6月に友好／姉妹省道締結、鳥取県及び吉林省が1994年9月に「友好交流に関する覚書」（2017年に友好県省締結）、鳥取県と江原道が1994年11月に友好県・道締結を行ったことから始まる。

3県省道による定例行事として代表的なものは、2008年より持ち回りで実施されている「北東アジア産業協力フォーラム」であり、近年は毎年実施されている。

また、3県省道が主要メンバーとなる形で、日中韓以外の地域交流メカニズムを運営していることも特徴である。

江原道の提案で創設された「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」は1994年から、「東アジア地方政府観光フォーラム(EATOF)」は2000年から開始され、毎年参加地方政府間で持ち回り実施されている。



2008年～：「産業技術交流協力協定」締結、「北東アジア産業協力フォーラム」持ち回りで開催

2006年の「北東アジア地方国際交流・協力地方政府サミット」で、先端科学技術交流が必要との合意により、2008年に鳥取県商工労働部長、吉林省科学技术庁長、江原道経済産業局長の間で「産業技術交流協力協定」を締結し、これに基づき、3県省道の間で「北東アジア産業協力フォーラム」が持ち回りで開催されている。

これまでの開催実績

回	日程	開催都市
第1回	2008年	江原道春川市
第2回	2011年	吉林省長春市
第3回	2012年	鳥取県米子市
第4回	2013年9月	江原道春川市
第5回	2015年9月	吉林省長春市
第6回	2016年9月	鳥取県米子市
第7回	2017年9月	江原道春川市
第8回	2018年9月	吉林省長春市
第9回	2019年10月	鳥取県米子市
第10回	2021年[予定]	吉林省



2009年、2014年：友好交流周年事業

2009年には、吉林省長春市にて、同省の友好交流地域である鳥取県、島根県、江原道との友好交流15周年を祝賀するため、7月に「日中韓国際文化美食祭」、8月に「日中韓青少年卓球大会」が実施された。

また、2014年には、友好交流20周年を祝賀するため、それぞれ二国間の記念行事が行われたほか、日中韓では、同年8月に吉林省にて同省の友好交流地域である鳥取県、島根県、江原道の「日中韓友好交流20周年記念青少年文化体験事業」が実施された。

また、同年10月に鳥取県にて、交流の歴史を振り返る写真展が実施され、江原道では、3県省道及びカナダ・アルバータ州（江原道の友好都市、40周年）の同様の写真展及び児童美術展が実施された。

1994年～：「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」

3県省道は、「北東アジア地方国際交流・協力地方政府サミット」の参加地方政府であるロシアの沿海地方及びモンゴルの中央県とともに、会議を持ち回りで毎年開催してきた。各首長が毎年一堂に会し、地域の共同発展や繁栄のための議論をしている。

これまでの開催実績

回	日程	開催都市
第1回	1994年11月	江原道束草市
第2回	1995年11月	鳥取県米子市
第3回	1996年11月	江原道洪川郡
第4回	1997年8月	鳥取県鳥取市
第5回	1998年8月	吉林省長春市
第6回	1999年10月	江原道束草市
第7回	2000年11月	鳥取県米子市
第8回	2002年9月	吉林省延吉市
第9回	2004年7月	モンゴル中央県

第10回	2005年11月	江原道春川市
第11回	2006年8～9月	吉林省長春市
第12回	2007年10～11月	鳥取県
第13回	2008年9月	ロシアウラジオストク
第14回	2009年7月	モンゴル中央県
第15回	2010年5月	江原道平昌郡
第16回	2011年9月	吉林省長春市
第17回	2012年4月	鳥取県
第18回	2013年10～11月	ロシアウラジオストク
第19回	2014年7月	モンゴル中央県
第20回	2015年5～6月	江原道束草市
第21回	2016年8月	吉林省長春市
第22回	2017年10月	鳥取県倉吉市
第23回	2018年10月	ロシアウラジオストク
第24回	2019年7月	モンゴル中央県
第25回	2021年[予定]	江原道江陵市



第24回北東アジア地域国際
交流・協力地方政府サミット

写真提供
江原道

2000年～：東アジア地方政府観光フォーラム（EATOF）

東アジア地域の共同繁栄と各地域間の緊密な交流を進め、各地域間の国際観光交流の促進を図るとともに、協力して世界各地からの観光客誘致を図ることを目的に、江原道の提唱により2000年に創設された。EATOF事務局は江原道春川市に位置している。

EATOFは国家別に地方政府1地域のみが加入可能である。加盟地域は、3県省道のほか、中央県（モンゴル）、ジョグジャカルタ特別州（インドネシア）、セブ島（フィリピン）、サラワク州（マレーシア）、クアンニン省（ベトナム）、シェムリアップ州（カンボジア）、ルアンパバン県（ラオス）の10か国10都市。総会は隔年で、常任委員会は毎年開催されている。

これまでの総会開催実績

回	日程	開催都市
第1回	2000年9月	韓国・江原道
第2回	2001年9月	インドネシア・ジャカルタ特別州
第3回	2002年9月	フィリピン・セブ島
第4回	2004年9月	日本・鳥取県
第5回	2005年9月	中国・吉林省
第6回	2006年9月	マレーシア・サラワク州
第7回	2007年9月	タイ・チェンマイ州
第8回	2008年7月	モンゴル・中央県
第9回	2009年9月	韓国・江原道
第10回	2010年9月	ベトナム・クアンニン省
第11回	2011年9月	フィリピン・セブ島
第12回	2012年11月	カンボジア・シェムリアップ州
第13回	2013年10月	ラオス・ルアンパバン県
第14回	2014年9月	マレーシア・サラワク州
第15回	2016年10月	インドネシア・ジャカルタ特別州
第16回	2018年8月	日本・鳥取県
第17回	2020年10月[予定]	ベトナム・クアンニン省

東京都（日）—北京市（中）—ソウル特別市（韓）

3国の首都の姉妹都市関係をベースにした博物館交流、4都市の交流に拡大

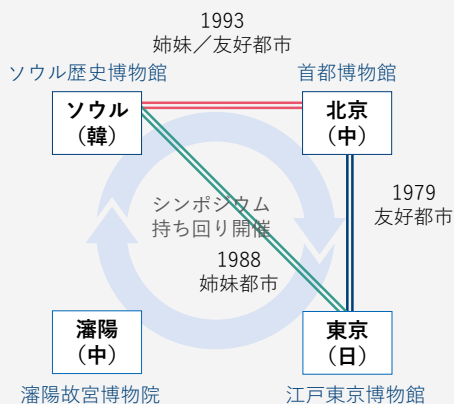
東京－北京間は1979年、東京－ソウル間は1988年、北京－ソウル間は1993年にそれぞれ姉妹／友好都市締結がなされている。

1995年3月には「BESETO協力に関する合意覚書」が3首長間で署名され、トライアングル体制が構築されたものの、この枠組みでの都市行政単位での協力は、諸般の事情により継続しておらず、美術祭や演劇祭など民間レベルでの交流が続けられている。

公共部門における協力は、3首都の博物館交流が継続している。2002年に設立されたソウル歴史博物館において、同年、3首都の博物館によるシンポジウムが行われ、定例化されることになった。その後、中国側の推薦により、瀋陽故宮博物院が2006年から加わり、4博物館の持ち回りでシンポジウムが行われることになった。

シンポジウムを通じた交流を10年以上にわたり継続してきたひとつの結実として、東京、北京、ソウルのうち2都市の博物館の間で相互に展示が行われる取組みがここ数年の間で増えているのが特徴である。

ミュージアムを通じた日中韓の都市間交流事例はまだ数が限られているが、他に北九州市（日）－大連市（中）－仁川広域市（韓）の博物館が巡回展示を行っている例がある。



2002年10月：日中韓シンポジウムがソウルで開催、定例化に合意

日中国交正常化30周年、中韓関係樹立10周年、ワールドカップ・サッカー大会が日韓共催で行われた2002年は、「日中韓国民交流年」に指定された。この年の10月25日、第1回「日中韓博物館国際シンポジウム」が、同年に開館したソウル歴史博物館の講堂で開催された。日本からは江戸東京博物館が、中国からは、北京の首都博物館が参加した。

「21世紀における博物館の役割と発展方向」というテーマが掲げられ、3国の首都の歴史と文化を紹介することをコンセプトとする3館の館長及び学芸員がそれぞれの活動を報告し、意見を交わす初の試みとなった。この行事は本来、定例化を念頭に置いた行事ではなかったが、行事に参加した各館の間で交流の意義と継続の必要性についての共通認識が得られ、翌年より持ち回りで継続されることになった。

開催実績（～2006年）

開催年度	開催都市	開催年度	開催都市
2002（第1回）	ソウル	2005（第4回）	ソウル
2003（第2回）	北京	2006（第5回）	北京
2004（第3回）	東京		

2007年～：瀋陽故宮博物院もシンポジウムに参加し、4館の交流に拡大

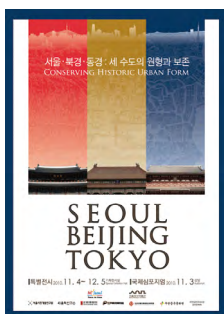
2007年、首都博物館の推薦により、瀋陽故宮博物院も持ち回りシンポジウムの一員になった。同年以降、3館交流から4館交流に拡大し、現在に至る。次のフォーラムは、2021年ソウル歴史博物館で開催される予定である。

2007年以降の開催状況

開催年度	開催都市	開催年度	開催都市
2007 (第6回)	東京	2014 (第13回)	北京
2008 (第7回)	瀋陽	2015 (第14回)	東京
2009 (第8回)	ソウル	2016 (第15回)	瀋陽
2010 (第9回)	北京	2017 (第16回)	ソウル
2011 (第10回)	東京	2018 (第17回)	北京
2012 (第11回)	瀋陽	2019 (第18回)	東京
2013 (第12回)	ソウル	2021 (第19回) [予定]	ソウル

▶ 2010年イベントポスター

資料提供
ソウル歴史博物館



2010年11月：ソウル歴史博物館で初の日中韓コラボ展示を開催

2010年11月4日から12月5日にかけて、「ソウル・北京・東京、3都の原型と保全」をテーマとした特別展示がソウル歴史博物館で行われた。11月3日には、同館講堂にて、日中韓3か国の首都の都市専門家が都市の原型と遺産の保全策を探るための国際シンポジウムが開催された。

2013年／2015年：ソウル歴史博物館と首都博物館で共同企画展示

ソウルと北京の博物館が、2013年及び2015年にかけて、二つの展示会を企画展示した。2013年にソウル歴史博物館にて「北京3000年、受容と包容の旅路」が実施され、2015年には、首都博物館にて「水路都市、ソウル：清溪川の発展」に関する展示が実施された。

2017年／2018年：江戸東京博物館と首都博物館で共同企画展示

2002年から続く江戸東京博物館と首都博物館の交流の成果として、両館が共同して企画・調査・研究を行い、交流展を行った。

まず、2017年2月18日から4月9日にかけて、特別展「江戸と北京－18世紀の都市と暮らし」を江戸東京博物館にて実施した。翌2018年8月14日から10月7日にかけて、「都市・暮らし－18世紀の東京と北京」を首都博物館で開催した。両展示会は、18世紀を中心にした江戸と北京のなりたちや、生活、文化を比較する点は共通しているが、来館者のニーズを考え、東京では北京の資料を、北京では東京の資料を多く展示した。

江戸東京博物館の広報資料によると、同館の収蔵資料が中国で展覧されるのはこれが初めてであり、入場者は50日間に27万8790人（1日平均5576人）と大盛況で、多数のメディアにも取り上げられた。また、展示期間中の8月15日に、第17回日中韓博物館シンポジウムが首都博物館にて実施された。



◀
（左）東京での展示会
（右）北京での展示会

写真提供
江戸東京博物館

2019年：江戸東京博物館とソウル歴史博物館で共同展示

江戸東京博物館は、2019年10月22日から12月1日にかけて、ソウル歴史博物館と初の共同展示「ユ・マンジュのハニャン」を実施した。1755年漢陽（ハニャン。現在のソウル）に生まれたユ・マンジュは、20歳になった1775年から死没する直前の1788年まで、一日も欠かすことなく日記を書き続けた。ユ・マンジュの日記を通して、18世紀後半の漢陽の風景やそこに暮らす人々の日常生活を紹介するもので、ソウル歴史博物館にて2017年に展覧された。なお、展示期間中の10月22日には「都市機能と博物館」というテーマで第18回日中韓博物館国際シンポジウムが江戸東京博物館にて実施された。



◀
共同展示（東京）

写真提供
江戸東京博物館

北九州市（日） — 大連市（中） — 仁川広域市（韓）

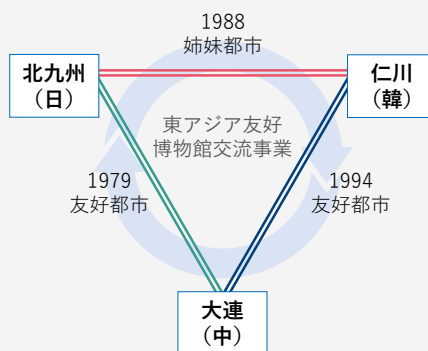
港湾都市による博物館交流、巡回展示で着実に成果を積み上げ

福岡県北九州市（日本）、遼寧省大連市（中国）、仁川広域市（韓国）の3市は、ともに港湾都市という共通点をもつ。

3市での交流は、北九州市及び大連市が1979年に友好都市締結、北九州市と仁川直轄市（当時）が88年に姉妹都市締結したことからはじまる。91年には日本の北九州市及び下関市と、その中韓の姉妹／友好都市4市（中国：大連、青島、韓国：釜山、仁川）からなる「東アジア都市会議」及び「東アジア経済人会議」が発足した（現在の「東アジア経済交流推進機構」の前身）。その後、94年に大連市及び仁川直轄市が友好都市締結を行い、日中韓のトライアングル姉妹／友好関係が成立した。

3市として現在も各市立博物館間で東アジア友好博物館交流事業を運営しており、「北九州市立自然史・歴史博物館（通称／以下：いのちのたび博物館）」、「大連市旅順博物館」及び「仁川広域市立博物館」は、2010年11月の合意書に基づき友好博物館交流を開始した。同年より、毎年持ち回りで館長会議及び事前の実務者会議を開始し、2011年の第2回館長会議における合意に基づき、翌年より巡回展示を開始した。2014年の第5回館長会議では、2期目の合意書を署名し、「東アジアの生活文化」をテーマとした隔年の巡回展の実施に合意した。同巡回展示は2021年10月まで運営される予定である。

なお、仁川広域市は、2019年の東アジア文化都市として、東京都豊島区及び西安市とともに1年間、多彩な文化・交流活動を展開した。北九州市も2020年の東アジア文化都市に選定されている。また、3市が加盟する「東アジア経済交流推進機構」は、日中韓の11の大都市から構成される環黄海都市経済交流のプラットフォームとなっている。大連市は、2016年に北九州、仁川を含む日中韓の友好8都市を招いて卓球大会を実施したことがある。



2010年：東アジア友好博物館交流事業の開始、以降毎年持ち回りで実務者会議及び館長会議を実施

東アジア友好博物館館長会議は、2008年北九州と仁川の間で実施された姉妹都市締結20周年記念事業から始まり、北九州市の提案で3か国交流へと発展した。2010年8月に実務者会議で準備調整が行われた後、同年11月に「第1回東アジア友好博物館館長会議」が北九州市で開かれ、その際、「東アジア友好博物館に関する合意書」が3館長により署名され、開始した。両会議は、以後、それぞれの博物館が持ち回りで実施している。途中、両会議ともほぼ毎年実施され、今後の活動方針などについて話し合われている。交流事業計画は3年ごとに協議の上、決定される。



第9回東アジア友好博物館
館長会議

写真提供
旅順博物館

これまでの開催実績

開催年度	開催都市	実務者会議	館長会議
2010	北九州	9月(第1回)	11月(第1回) 館長会議にて「東アジア友好博物館に関する合意書」署名
2011	仁川	7月(第2回)	10月(第2回)
2012	大連	6月(第3回)	
2013	北九州	8月(第4回)	12月(第3回)
2014	仁川	7月(第5回)	10月(第4回) 館長会議にて、2期目となる「合意書」に署名、隔年の巡回展に合意
2015	大連	7月(第6回)	10月(第5回)
2016	北九州	7月(第7回)	11月(第6回)
2017	仁川	6月(第8回)	10月(第7回)
2018	大連	4月(第9回)	9月(第8回)
2019	北九州	7月(第10回)	10月(第9回)
2020	仁川	8月(第11回) *オンライン開催	11月(第10回) [予定]

2012年：協力展示の第一弾「大連、都市の風景」を実施

大連の新旧の写真を対照して近代都市大連の歴史と現在の姿を示す展示。

日程	開催会場
2012年10月9日～11月4日	仁川広域市立博物館
2012年10月26日～11月25日	いのちのたび博物館

2013年：いのちのたび博物館で、「東アジア交流コーナー」設置

2013年3月、いのちのたび博物館は、リニューアル・オープンにともない、3都市博物館の交流を紹介する観点から、同博物館内に「東アジア交流コーナー」を常設の形で設置し、大連市及び仁川広域市の歴史と文化、両博物館の活動について、写真などの関係資料や所蔵品の複製等により紹介している。

いのちのたび博物館
「東アジア文化コーナー」

写真提供
いのちのたび博物館



仁川広域市立博物館展示ポスター

資料出典
仁川広域市立博物館



2013年～2014年：協力展示の第二弾「北九州—工業都市の風景」展を実施

鳥瞰図や炭鉱画の複製と写真により工業都市北九州の歴史と現在を紹介した。

日程	開催会場
2013年10月15日～11月10日	仁川広域市立博物館
2014年1月21日～2月16日	旅順博物館

2014～2015年：協力展示の第三弾「モダン仁川画」展を実施

様々な印刷物の挿絵資料によって、近代都市仁川がどのように表現され、伝達されたか、またそのイメージがどのように受容されたかを探る展示。

日程	開催会場
2014年12月4日～2015年1月4日	旅順博物館
2014年12月6日～2015年1月12日	仁川広域市立博物館

2016年～2017年：「東アジアの生活文化」巡回展示の第一弾「着物」展を実施

2014年第4回博物館館長会議において、「東アジアの生活文化（衣食住）」を統一テーマとした巡回展示を隔年で実施することを合意した。

シリーズ第一弾として、日本の衣類文化の特別展示は担当の北九州から始まり、旅順、仁川の順に巡回で実施された。

日程	開催会場	展示テーマ
2016年11月12日～12月11日	いのちのたび博物館	「着物が語る日本の心」展
2017年1月10日～2月5日	旅順博物館	「布衣人生—日本近代平民服飾」展
2017年2月14日～3月19日	仁川広域市立博物館	「着物が語る日本の情緒」展



旅順における展示

写真提供
いのちのたび博物館

2018年～2019年

「東アジアの生活文化」巡回展の第二弾「箸」展を実施

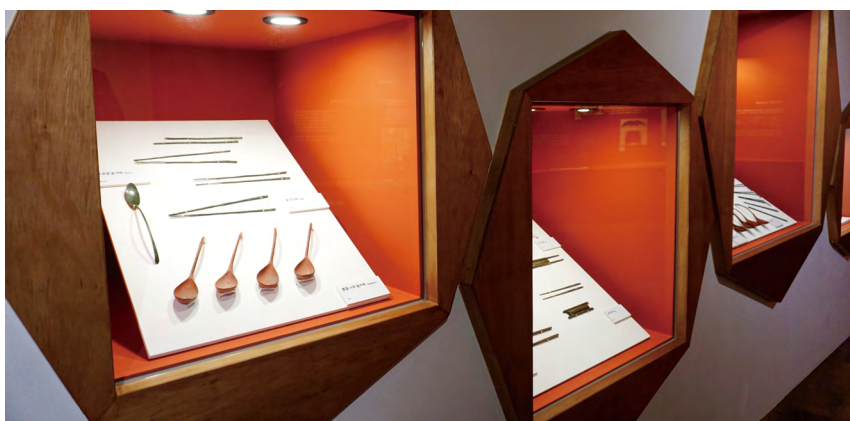
箸文化をテーマに二弾目の展示会が行われた。展示会は旅順博物館の所蔵品をベースに各博物館の固有の特性を反映した。

日程	開催会場	展示テーマ
2018年5月18日～9月20日	旅順博物館	
2018年10月20日～12月9日	いのちのたび博物館	「箸と生活—中日韓箸文化展」を「食のたび—箸と和食の文化史—」展の一部として実施
2019年1月22日～2月24日	仁川広域市立博物館	「偉大な道具箸」展

仁川における展示

写真提供

仁川広域市立博物館



2020年～2021年「東アジアの生活文化」巡回展示の第三弾「廁」を実施予定

第三弾の「韓国の住居文化に対する理解」をテーマに仁川広域市立博物館の所蔵品が展示される予定である。

開催日	開催会場	展示テーマ
2020年11月中旬 [予定]	仁川広域市立博物館	「廁」

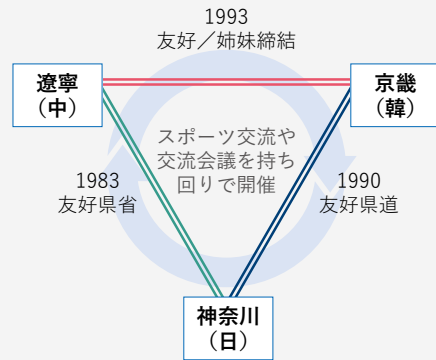
神奈川県（日） — 遼寧省（中） — 京畿道（韓）

1996年から続く3地域の友好交流会議、青少年スポーツ交流の拡大

神奈川県（日本）、遼寧省（中国）、京畿道（韓国）の3県省道は、神奈川県が1983年5月に遼寧省と友好県省、90年4月に京畿道と友好県道締結、遼寧省と京畿道も93年10月に友好／姉妹提携締結を行い、トライアングルの構図ができあがった。

1995年に遼寧省の提案で3地域の相互理解とつながりを土台とした協力ネットワークを構築するために、96年より「友好県省道交流会議」が開始した。3地域は同代表者の話し合いを通じて、共通課題の解決策や交流促進について定期的に行う一方、具体的な事業として、2004年から青少年スポーツ交流事業や学術フォーラムを開始した。毎年持ち回りで開催される三県省道スポーツ交流事業は現在まで継続されており、参加者（約150人）や競技種目（サッカー、バスケットボール、卓球の3種）も拡充してきている。

他のトライアングル交流と比較すると、最も歴史が長い交流の一つであり、交流規模の面でも最も充実している。



1996年～：「友好県省道交流会議」

3県省道は、地域協力ネットワークを強化するために、1996年以来、「友好県省道交流会議」を行っている。毎年各地域を巡回しながら開催され、3県省道の地方公務員約100人が参加する。共通する課題の解決方法や文化交流等の促進について議論を行っている。

これまでの開催実績

回	日程	開催地	参加者数	テーマ
第1回	1996年8月	遼寧省	147人	3県省道の友好交流に関して討議
第2回	1998年9月	京畿道	150人	環境問題と地域の役割
第3回	2000年9月	神奈川県	145人	科学技術と文化
第4回	2002年10月	遼寧省	250人	3県省道の地方自治体間の協力模索
第5回	2004年10月	京畿道	230人	3県省道の全面的協力の強化
第6回	2006年11月	神奈川県	150人	東アジア繁栄のための共通認識強化
第7回	2008年10月	遼寧省	100人	3県省道の環境保護分野の協力強化
第8回	2010年10月	京畿道	100人	3県省道の地域発展と協力
第9回	2013年3月	神奈川県	100人	3県省道の経済交流活性化
第10回	2014年8月	遼寧省	50人	高齢化克服のための社会構築

第11回	2017年11月	京畿道	70人	スタートアップ等の交流活性化のため
第12回	2019年5月	神奈川県	50人	SDGs(持続可能な発展目標)のための3県省道協力
第13回	2021年 [予定]	遼寧省		

2019年友好県省道交流会議
共同合意書への署名

写真提供
神奈川県



2004年～：三県省道スポーツ交流事業

2002年の第4回「友好県省道交流会議」において、スポーツ交流の推進に関する3者の合意がなされ、2004年から毎年夏季休業中に、スポーツ交流事業が行われている。同事業は、3地域の青少年に国際交流の機会を提供し、スポーツや文化交流を通して相互理解を深めるとともに、国家間のつながりを強化することを目的として推進された。当初、男子サッカー1種目だった競技も、2007年には女子バスケットボールが追加され、2014年からは、男女卓球も追加され、参加者、競技種目を拡大して実施している。

第15回大会の様様

写真提供
神奈川県



神奈川県側実行委員会のまとめた2018年度事業報告書によると、参加した日本の高校生からは、①言葉は通じなかったがジェスチャーなどでコミュニケーションがとれた、②中国、韓国の選手たちがフレンドリーに接してくれた、理解や関心を高めるきっかけになった、③皆同じ高校生であり、スポーツに国境や言葉の壁はないと実感した、などの感想の声寄せられた。

これまでの開催実績

回	日程	開催地	参加者	内容
第1回	2004年8月 23～27日	京畿道	神奈川県選手団24人 遼寧省選手団21人 京畿道選手団20人	サッカー交流親善試合、 学校訪問、文化体験等
第2回	2005年8月 25～29日	遼寧省	神奈川県選手団24人 遼寧省選手団23人 京畿道選手団25人	サッカー交流親善試合、 学校訪問、文化体験等
第3回	2006年8月 23～27日	神奈川県	神奈川県選手団27人 京畿道選手団24人	サッカー交流親善試合、 学校訪問、文化体験等
第4回	2007年8月 24～28日	京畿道	神奈川県選手団42人 遼寧省選手団42人 京畿道選手団35人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第5回	2008年8月 25～29日	遼寧省	神奈川県選手団42人 遼寧省選手団45人 京畿道選手団35人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第6回	2009年8月 24～28日	神奈川県	神奈川県選手団39人 京畿道選手団38人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第7回	2010年8月 23～27日	京畿道	神奈川県選手団42人 遼寧省選手団33人 京畿道選手団39人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、文化体験等
第8回	2011年8月 22～26日	遼寧省	神奈川県選手団40人 遼寧省選手団37人 京畿道選手団39人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、文化体験等
第9回	2012年8月 27～31日	神奈川県	神奈川県選手団37人 遼寧省選手団19人 (女子バスケットボール のみ) 京畿道選手団39人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第10回	2013年8月 26～30日	京畿道	神奈川県選手団41人 遼寧省選手団15人 (女子バスケットボール のみ) 京畿道選手団49人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等



出典

神奈川県、京畿道

第11回	2014年8月 26～30日	遼寧省	神奈川県選手団47人 遼寧省選手団48人 京畿道選手団45人(男子 サッカー・女子バスケ ットボールのみ)	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、学校訪問、文化体験 等
第12回	2015年8月 24～28日	神奈川県	神奈川県選手団46人 遼寧省選手団51人 京畿道選手団54人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、学校訪問、文化体験 等
第13回	2016年8月 22～26日	京畿道	神奈川県選手団50人 遼寧省選手団47人 京畿道選手団50人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、文化体験等
第14回	2018年8月 20～24日	遼寧省	神奈川県選手団49人 遼寧省選手団53人 京畿道選手団51人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、文化体験等
第15回	2019年8月 19～22日	神奈川県	神奈川県選手団45人 遼寧省選手団10人 （男女卓球のみ）	卓球（男女）交流親善試 合、学校訪問、文化体験 等
第16回	2021年8月 [予定]	京畿道	未定	未定

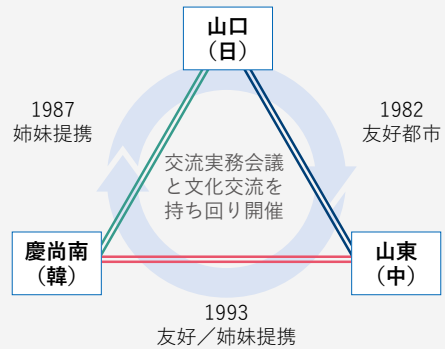
山口県（日） — 山東省（中） — 慶尚南道（韓）

1997年にはじまった日中韓3地域交流、2006年から本格化

山口県（日本）、山東省（中国）、慶尚南道（韓国）の3地域は、ともに隣国への海の玄関口を有するという共通点をもつ。

3地域での交流の開始前、山口県と山東省が1982年8月に友好協定を締結、山口県と慶尚南道は87年6月に姉妹提携締結、山東省と慶尚南道は93年9月に姉妹／友好都市締結を行った。

97年、山口県－山東省15周年、山口県－慶尚南道10周年を契機に、双方間の交流からもう一段階発展した協力強化のため、トライアングル交流の推進が始まった。2006年からは具体的な協力アジェンダを話し合うため、交流実務会議と交流事業を毎年開催してきた。以来、文化・青少年・福祉分野等、多方面での交流を続けている。一方、大学単位での交流も行われている。



2006年～：3地域交流実務会議を持ち回りで開催

山口県、山東省、慶尚南道の協力事業は山口県・山東省友好協定15周年、山口県・慶尚南道姉妹提携10周年を契機に、三者による広域連携・施策連携を図るため、共同交流事業が開始された。以来、文化・青少年の分野を中心に交流を続けてきた。2006年からは交流実務者会議を持ち回りで開催し、3地域の交流事業を実施している。近年開催された第9回3地域交流実務者会議では、慶尚南道の提案により、高齢化社会に関する話し合いがなされた。高齢者福祉政策の紹介、高齢者福祉施設の視察、高齢者福祉関係団体の交流の場を維持するための福祉団体交流事業の推進が話し合いにより決められた。

各種行事の開催実績

日程	開催都市	イベント
1997年11月	山口県	・東アジア文化の集い ・第1回国際文化シンポジウム
1998年2月	山口県	・国際環境シンポジウム
1999年11月	山東省	・第2回国際文化シンポジウム
2001年10月	慶尚南道	・第3回国際文化シンポジウム
2006年11月	山口県	・第1回3地域交流実務会議 ※実務会議の定期開催に合意 ・3県省道観光交流フォーラム
2007年9月	山東省	・第2回3地域交流実務会議

2007年10月	山口県	<ul style="list-style-type: none"> 山口県・山東省25周年、山口県・慶尚南道20周年記念事業 →山口県・山東省・慶尚南道トライアングルフォーラム（国際交流・国際観光・自然環境） →三県省道高校生スポーツ交流
2011年3月	慶尚南道 山東省	<ul style="list-style-type: none"> 第3回3地域交流実務会議 3者メディア交流・協力事業
2012年2月	山東省	<ul style="list-style-type: none"> 第4回3地域交流実務会議
2012年7月	山東省	<ul style="list-style-type: none"> 山口県・山東省30周年、山口県・慶尚南道25周年記念事業 →伝統文化芸術交流 →報道交流協力の検討会 →体育友好交流（種目：卓球） →青少年政策専門家シンポジウム
2014年8月	山東省	<ul style="list-style-type: none"> 第5回3地域交流実務会議 3県省道青年卓球友好交流試合
2015年9月	慶尚南道	<ul style="list-style-type: none"> 第6回3地域交流実務会議 ※ 開催周期を1年おきに変更 MERSによりバスケットボール大会が中止
2017年8月	山口県	<ul style="list-style-type: none"> 第7回3地域交流実務会議 ※ 開催周期を1年おきから年次に変更 山口県・山東省35周年、山口県・慶尚南道30周年記念事業 →3地域青少年文化公演
2018年8月	山東省	<ul style="list-style-type: none"> 第8回3地域交流実務会議三県省道書画交流
2018年10月	山口県	<ul style="list-style-type: none"> 山口ゆめ花博
2019年11月	慶尚南道	<ul style="list-style-type: none"> 第9回3地域交流実務会議 馬山菊祭りでの伝統武道公演にて、薙刀（日本）、太極拳（中国）、テコンドー（韓国）を披露
2020年下半期 [予定]	山口県	<ul style="list-style-type: none"> 第10回3地域交流実務会議（オンライン開催を検討中）

2019年3都市交流
実務者会議

写真提供
慶尚南道





◀ 日中韓伝統舞踊公演団記念写真

写真提供
慶尚南道

1997年～：山口県立大学、曲阜師範大学、慶南大学校の交流事業を継続

山口県立大学は、曲阜師範大学（山東省）、慶南大学校（慶尚南道）と学術交流協定を締結し、2000年度から両大の学生が毎年夏期に来日している。同事業は、1997年から99年に実施された「3大学トライアングル交流事業」が前身であり、それが発展する形で2000年から行われているものである。

「グローバル学生交流事業」は、毎年6月末から7月の約3週間にわたり実施されている。学内外との交流を図りながら、学生と地域の国際化を目的としている。そのため、期間中の日程は、中韓からの学生達は日本語講義をベースに、ホームステイ、日本文化体験、学部学科交流、学生交流会など多岐にわたる活動に参加する。

なお、山口県立大学の学生も、短期留学プログラムで曲阜師範大学及び慶南大学校にそれぞれ学生を送っている。前者は同県立大学の学生のみが対象であり、後者は日本、中国以外の提携校の学生も含まれている。



◀ 山口県立大学の各学部学科との交流の様子

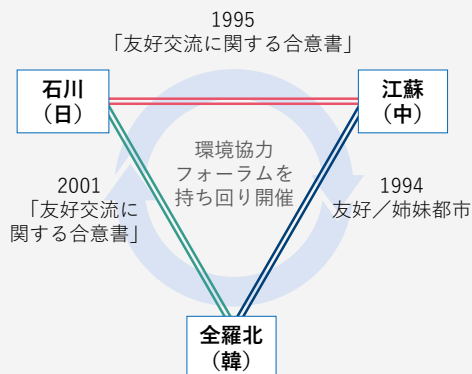
写真提供
山口県立大学

環境協カトライアングル事業を継続

石川県（日本）、江蘇省（中国）、全羅北道（韓国）の3県省道は、環境面での実務者間の交流を継続している。

三県省道での交流は、江蘇省及び全羅北道が1994年10月に友好／姉妹提携締結、石川県及び江蘇省が95年11月に「友好交流に関する合意書」締結、石川県と全羅北道が2001年9月に「友好交流に関する合意書」締結を行ったことから始まる。

3県省道による定例行事としては、持ち回りで実施されている環境協カトライアングル事業が行われている。2003年に石川県と全羅北道から始まった事業は、2006年から江蘇省を含めた3県省道事業へと拡大し、現在まで続いている。



▶
2019年中韓
環境協カフォーラム

写真提供
全羅北道



2003年～：日中韓環境協カフォーラムを持ち回りで開催

3地域は、各国に共通する重要課題である環境問題に関し、相互協カと認識の共有化を図るため、環境保全分野の実務者による意見交換会等を持ち回りで実施している。

これまでの実績



出典

石川県庁。「開催年度」は日本の会計年度（4月1日～3月31日）

回	開催年度	開催地	テーマ
第1回	2003年度*	石川県で開催	環境教育
第2回	2004年度*	石川県で開催	企業及び行政機関における環境配慮と環境教育
第3回	2005年度*	石川県で開催	循環型社会の推進
第4回	2006年度	江蘇省で開催	水環境保全対策
第5回	2007年度	全羅北道で開催	地球温暖化対策
第6回	2008年度	石川県で開催	地球温暖化対策
第7回	2009年度	江蘇省で開催	生物多様性の保全
第8回	2013年度*	石川県で開催	地球温暖化対策
第9回	2014年度*	全羅北道で開催	生物多様性の保全
第10回	2015年度*	石川県で開催	資源循環政策
第11回	2016年度	江蘇省で開催	固体廃棄物の管理及び再資源化
第12回	2017年度	全羅北道で開催	PM2.5の総合対策について
第13回	2018年度	石川県で開催	里山の利用・保全
第14回	2019年度	江蘇省で開催	土壌汚染の管理と復元・利用
第15回	2021年度 [未定]	全羅北道で開催	

*日韓2地域により開催

さ ど 佐渡市 (日) — かんちゅう 漢中市 (中) — チャンニョン 昌寧郡 (韓)

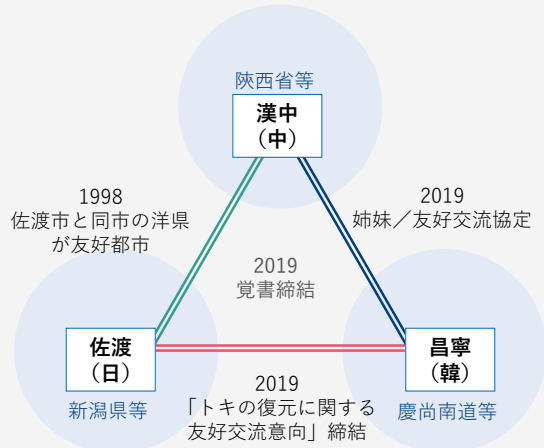
トキを通じた3市・郡協力の多様化

新潟県佐渡市（日本）、陝西省漢中市（中国）、慶尚南道昌寧郡（韓国）の3市・郡は、トキの生息地として、県省道を含め、交流を深めている。

かつて、トキは日中韓等で広く生息していたが、乱獲等により絶滅の危機に瀕していた。実際、韓国では1979年に非武装地帯で最後に目撃されたのを最後に、絶滅したとみられており、日本でも2003年に日本生まれのトキは絶滅した。一方、中国では絶滅したとみられていたトキが1981年に発見され、増殖に成功した。国レベルの友好の証として、99年に中国から日本にトキのつがいが増呈され、2008年には韓国に贈呈され、それぞれ増殖に成功した。

以降、3国協力として、2012年からトキの野生復帰や生息地管理等に関する国際会議が行われ、2都市間での協力が進んだ。

2019年7月に行われた「トキ国際フォーラム」においては、トキの保護、野生復帰、生殖地保護・復旧の分野で交流を持続的に促進し、これを土台に人的交流、生態観光、観光事業の振興など、3者間の交流強化のための覚書が締結された。



2019年7月の覚書署名式。
左から日中韓三国協力事務局長、
昌寧郡守、漢中市副市長、
佐渡市長

出典
日中韓三国協力事務局



1999年、2008年：中国より日本、韓国へトキ寄贈

日本は、1985年より中国からトキを借り受ける等により日本のトキとのペアリングを試みたが成功していなかった。98年11月、江沢民国家主席が国賓として訪日をした際に天皇陛下にトキのつがいの贈呈を表明、99年1月に佐渡に到着し、その後増殖に成功した。韓国は、2008年5月に李明博大統領が国賓として訪中した際に胡錦涛国家主席より同大統領にトキのつがいの贈呈を表明し、同年11月に韓国・昌寧郡に到着、増殖に成功した。

2012年～：トキ保護増殖事業のための日中韓の情報共有

日中韓3か国において、トキの保護増殖事業に携わっている各国の関係者が集い、トキの保護の現状などを報告するとともに、情報の共有を図るために実施するため、国際会議やシンポジウムを行っている。最近の事例として、2014年11月に中国、16年12月に日本、19年5月に韓国にて実施されている。

2018年～：中国で第1回トキ国際フォーラム開催、2019年に交流を本格化させるため覚書を締結

2018年5月、陝西省漢中市洋県にて、日中韓のトキに携わる関係者らが各地の取り組みを紹介する初の「トキ国際フォーラム」が実施された。同フォーラムは、トキの保護に関する協力にとどまらず、トキを「媒介」として産業、観光、文化交流等幅広い交流を目ざすために企画されたものである。

2019年7月11日、韓国ソウルにて、日中韓三国協力事務局主催、中国・トキ国際フォーラム事務局共催で「トキ国際フォーラム2019 inソウル」が開催された。2019年は、韓国で初めて野生放鳥に成功した記念すべき年であり、初の日中韓首脳会合から20周年でもあることから、日中韓三国協力事務局が所在する韓国ソウルで実施する運びとなった。

同フォーラムにおいては、三浦基裕佐渡市長、張建国漢中市副市長、韓理宇(ハン・ジョンウ)昌寧郡守及び李鍾憲(イ・ジョンホン)日中韓三国協力事務局事務局長による覚書が締結され、今後、トキに関連した行事を実施していくこと等、トキを媒介にした文化、観光、青少年交流など様々な交流を実施していくことにつき合意された。各セッションでは、トキを通じた地方交流や観光の活性化について議論がなされた。また、本フォーラムに併せて日中韓のトキ生息地の子ども交流プログラムが実施され、同フォーラムの午後にはセッションに先立ち、3か国の子どもたちによる公演が行われた。



2019年ソウルのフォーラムで韓国のトキの童謡を歌う日中韓の子どもたち

出典
日中韓三国協力事務局

これまでの実績

回	日程	開催地	テーマ
第1回	2018年5月22～24日	中国・漢中市	トキが縁で共に未来を創ろう
第2回	2019年7月11日	韓国・ソウル	新たな旅立ち・新たな高みへ：トキを通じた持続的な日中韓三国協力に向けて
第3回	[予定]	日本・新潟県佐渡市	

2019年5月：3か国の来賓が見守るなか、韓国で初の野生放鳥に成功

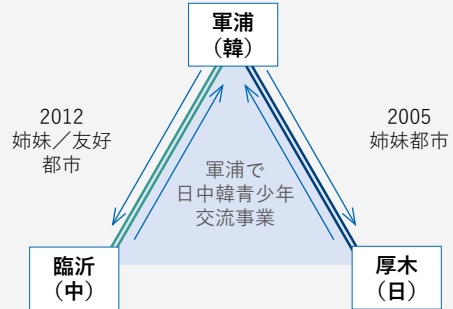
2019年5月22日、韓国における唯一のトキ生息地である慶尚南道昌寧郡において、長年の念願であった野生放鳥が実現した。放鳥式には日本と中国の来賓が出席した。出席した佐渡副市長と昌寧郡守との間で、「トキの復元に関する友好交流意向」を締結した。また、翌23日、同郡にて、トキの増殖や野生復帰のための日中韓シンポジウムが実施された。

あつぎ りんぎ グンポ
厚木市（日） — 臨沂市（中） — 軍浦市（韓）

軍浦市が中心となり、2010年より3都市青少年交流事業を運営

京畿道軍浦市（韓国）は、同市が主導する形で、2010年より神奈川県厚木市（日本）及び山東省臨沂市（中国）と3都市間青少年交流事業を開始し、現在まで継続している。2010年の開始時点で、軍浦市は、厚木市と友好都市（2005年締結）、臨沂市とは2008年より交流関係にあった（その後、2012年に姉妹／友好都市関係締結）。

軍浦市は、厚木市及び臨沂市との間で、青少年の派遣と招聘を毎年1回ずつ実施しており、軍浦から派遣する際は、2都市間での交流事業となっているが、招聘する際は、同時期に両都市から青少年を招聘することにより、3都市による「国際青少年フェスティバル」と題する日中韓青少年交流事業を成立させている。日中韓3都市間で姉妹／友好締結が成立していない場合にも、日中韓交流の実施が可能であることを示す好事例と言える。



「2019 軍浦国際青少年フェスティバル」K-POP教室

写真提供
 軍浦市

2010年～：軍浦市主催で「国際青少年フェスティバル」実施

2010年7月、軍浦市の主催により厚木市・軍浦市・臨沂市の3都市から青少年が集まり、第1回「軍浦国際青少年フェスティバル」が実施された。第1回以来現在に至るまで、プログラムの大枠は、①軍浦の参加学生の自宅で日中の学生がホームステイ（近年は3泊）、②全体合宿を通じた交流（近年は1泊）、③市長等への表敬、④韓国語教室、K-POP、伝統礼法、陶芸などの文化体験及び見学等で構成されている。軍浦で募集される学生（中高生）は、日本語関心者と中国語関心者別に募集がかけられ、同フェスティバル実施後、厚木市（近年は翌年1月）又は臨沂市（近年は8月）を数日間訪問することも定例化している。

これまでの開催状況

回	日程	参加国
第1回	2010年7月23～29日	日本・中国・韓国
第2回	2011年7月21～29日	日本・中国・韓国
第3回	2012年7月22～28日	日本・中国・韓国・ロシア（ウスリースク）
第4回	2013年7月25～30日	日本・中国・韓国・ロシア（ウスリースク）
第5回	2016年7月25～30日	日本・中国・韓国
第6回	2017年7月25～31日	日本・中国・韓国
第7回	2018年7月23～29日	日本・中国・韓国
第8回	2019年7月20～25日	日本・韓国
第9回	2021年[予定]	

かなざわ

金沢市 (日)

そしゅう

蘇州市 (中)

チョンジュ

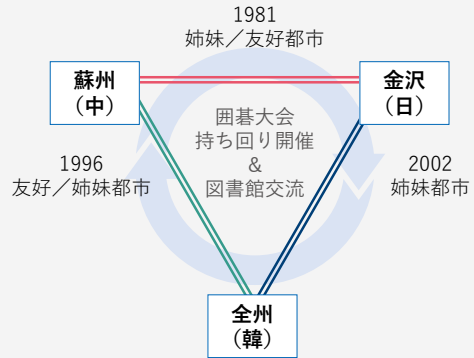
全州市 (韓)

囲碁と図書館を通じたトライアングル交流

石川県金沢市（日本）、江蘇省蘇州市（中国）、全羅北道全州市（韓国）の3市は、「ユネスコ創造都市ネットワーク(UNESCO Creative Cities Network)」指定都市という共通点がある。金沢市と蘇州市は「クラフト&フォークアート」、全州市は「食文化」の分野で創造都市として指定されている。

3市での交流は、金沢市及び蘇州市が1981年に姉妹/友好都市締結、蘇州市と全州市が96年に姉妹都市締結、金沢市及び全州市が2002年に姉妹都市締結したことから始まる。2010年から囲碁交流を、2015年以降は図書館交流をそれぞれ開始した。姉妹都市関係を基盤として、2013年から15年にかけて金沢海みらい図書館、蘇州図書館及び全州市の完山図書館は、2館間で友好協力に関する覚書をそれぞれ締結し、3館間によるトライアングルの協力構図も完成した。

なお、金沢市は2018年に「東アジア文化都市」として、中国のハルビン市及び韓国の釜山広域市とともに、1年間にわたり多彩な文化交流活動を展開した。



2018年日中韓姉妹都市
囲碁親善大会の様子

写真提供
全州市

2010年～：日中韓姉妹都市囲碁親善大会を1年おきに開催

囲碁の交流は、2009年に金沢市が提案し、2010年に蘇州で第1回を開催、以後持ち回りで実施している。第1回から第3回までは毎年実施し、第4回から隔年実施となった。金沢市側は民間団体（金沢国際囲碁協会）が主催で実施している一方、蘇州市及び全州市は行政が主催者となっている。2018年の第6回大会には金沢市から10人、蘇州市から10人、全州市から20人の全40人のアマチュア選手が参加した。

これまでの開催実績

回	開催年	開催地	回	開催年	開催地
第1回	2010年	蘇州市	第5回	2016年	金沢市
第2回	2011年	金沢市	第6回	2018年	全州市
第3回	2012年	全州市	第7回	2020年[未定]	蘇州市[未定]
第4回	2014年	蘇州市			

2013年～：3市図書館が交流協力のMOUを締結し、図書館交流を開始

友好姉妹都市関係を背景として、2013年12月、金沢海みらい図書館と蘇州図書館は、友好交流協力に関する覚書を締結した。翌2014年9月には蘇州図書館と完山図書館が、2015年10月には金沢海みらい図書館と完山図書館もそれぞれ覚書を締結し、3図書館間で、トライアングルの協力構図が完成した。

その後の三館としての主な交流事業としては、以下のものが挙げられる。

(1) 2016年10月6日～25日

金沢海みらい図書館は蘇州図書館と完山図書館の協力のもと、蘇州市及び全州市を紹介する文化紹介展示事業を実施した。期間中には、子どもに本を推奨するための企画「日本・中国・韓国にみる 家庭でできる子どもの読書推進」を実施した。

(2) 2018年10月11日～30日

金沢海みらい図書館は蘇州図書館と完山図書館の協力で、「金沢市図書館と姉妹都市図書館 交流のあゆみ」を実施した。蘇州市及び全州市の概要、文化・伝統工芸、各市図書館、「日本・中国・韓国 子ども童話交流事業」について、パネルや工芸品、関連図書等の展示を通して紹介。期間中には、「絵本と歌でつなぐ三都物語 ～金沢・蘇州・全州～」と題する絵本づくりのワークショップや音楽会が行われた。

(3) 2019年4月9日

金沢海みらい図書館から金沢市の東アジア文化都市2018事業の一環で開催された「絵本と歌でつなぐ三都物語 ～金沢・蘇州・全州～」で展示された6冊の図書（「日本・中国・韓国童話集1～3」、「日本・中国・韓国こども童話交流事業報告書2015～2017」）を蘇州図書館と完山図書館に寄贈した。

(4) 2019年12月10～11日

蘇州図書館の第2図書館の開館式を記念して、3図書館の関係者による交流会を開催した。約20人の日中韓図書館関係者が出席し、各国の図書相互貸借制度の運営状況と発展方向についての情報共有が行われた。

よこはま

せんしゅう

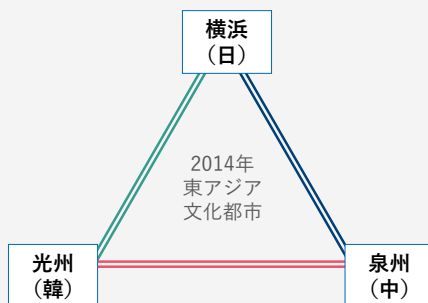
クァンジュ

横浜市（日）－泉州市（中）－光州広域市（韓）

「東アジア文化都市2014」

神奈川県横浜市（日本）、福建省泉州市（中国）、光州広域市（韓国）の3都市は、2014年の1年間、初代「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。同年11月、3市の市長は「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に署名し、今後も3都市間の文化・芸術・観光等、多方面の分野で交流を継続し、共に発展することを約束した。

この3都市は、この協定に基づき、2015年以降も活発に交流を継続している。メインの取組みとして、それぞれの都市で年間1回ずつ他の2都市の代表団を招聘する形で文化交流や青少年交流を実施している。各都市で実施する大型文化行事に芸術団が参加する機会が多い。



交差する。人・アート・文化
**東アジア文化都市
 2014横浜**
 Culture City of East Asia
 2014, YOKOHAMA



东亚文化之都・2014泉州
 Culture City of East Asia 2014, QUAN ZHOU



左から泉州市副市長、
 横浜市長、光州広域市長

写真提供
 横浜市

「友好協力都市協定」締結、交流の持続に合意

2014年から始まった「東アジア文化都市」の初代開催都市として、横浜市、泉州市、光州広域市は、多彩な文化芸術事業を通じて1年間活発に交流を行った。同年11月の横浜閉幕式典のタイミングに合わせ、同月18日、3都市間で「東アジア文化都市 友好協力都市協定」を締結した。この協定は3都市が初代東アジア文化都市として1年間構築してきた友好関係を維持し、文化・芸術・観光分野の持続と交流を発展させるという目的で締結された。協定の内容は以下のとおりである。

1. 相互主義の原則に従った交流と友好の促進。
2. 文化・芸術団体、企業、市民など民間レベルの交流活性化に向け努力。
3. 東アジア文化都市発展のため互いの経験を共有し、協力して事業を推進するよう努力。
4. 3都市の代表と関係部署が緊密な関係を維持し、交流、協力業務、共通関心事項につき協議。

2015年の主な交流活動

メイン事業

開催地	内容
横浜	8月：「横浜ダンスパレード」に泉州、光州の芸術団が参加
光州	9月：「日中韓書道交流展」開催、泉州、横浜、清州、青島、新潟の6つの東アジア文化都市で活躍する作家23人を招待、全61点の作品を展示
光州	10月：「思い出の7080忠壮祭り」に横浜（公演とパレード）、泉州（人形劇）の芸術団が参加
泉州	11月：「第14回アジア芸術祭」に横浜、光州の芸術団が参加

その他事業事例

開催地	内容
横浜	11月：光州広域市と国際女性美術交流協会（韓国）からの呼びかけにより、横浜のBankART Studio NYK（横浜の「創造限界拠点」の一つ）にて、国際女性現代アート・フォーラム及び美術展を実施
光州	11月～12月：光州市立美術館にて、BankART 1929の活動を紹介する展覧会を実施
光州	12月：金大中コンベンションセンターで泉州と「光州—泉州メディア交流イベント」実施、両都市間の相互記者派遣と文化関連内容の取材時の協力事項等を議論

2016年の主な交流活動

メイン事業

開催地	内容
光州	6月：「国立アジア文化殿堂フリンジフェスティバル」に横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	9月：「横浜音祭り2016」に泉州、光州の芸術団が参加するとともに、学校訪問も実施
泉州	10月：「第2回海上シルクロードフェスティバル国際演劇展」に横浜、光州の芸術団が参加



2016横浜音楽祭での
光州芸術団の公演

写真提供
横浜市

その他事業事例

開催地	内容
横浜／ 光州	1～3月：「黄金町×光州AIR交換プログラム2016」を開催し、横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施
光州	7月：「東アジア文化都市 建築フォーラム」に横浜市が参加

2017年の主な交流活動

メイン事業

開催地	内容
光州	6月：「光州アジア文化殿堂国際ショナルフリンジフェスティバル」に横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	8月：「東アジア文化都市2014横浜」青少年文化交流を実施。日中韓の高校生と教師36人が横浜に集まり、「ヨコハマトリエンナーレ2017」鑑賞や、日本文化体験等を通じて交流
泉州	12月：「第3回海上シルクロード国際芸術祭」に横浜、光州の芸術団が参加



泉州のイベントにおける
横浜の公演団

写真提供
横浜市

その他事業事例

開催地	内容
光州	11月：「東アジア文化都市ネットワークフォーラム」に横浜、泉州を含む歴代「東アジア文化都市」及び学会専門家が参加

2018年の主な交流活動

メイン事業

開催地	内容
光州	7月：「2019光州世界水泳選手権大会大国民ハンマダン」を実施 横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	9月：泉州、光州の芸術団が「Dance Dance Dance @YOKOHAMA 2018」等のイベント出演及び学校訪問
泉州	11月：「東アジア文化都市・中日韓 都市美術作品展」を実施 期間中に横浜、光州から派遣されたアーティストが現地で制作活動を行う等交流を深めた。

▶
横浜のイベントにおける
中国公演団

写真提供
横浜市



その他事業

開催地	内容
横浜／光州	1月～3月：「黄金町×光州AIR交換プログラム2017」を開催し(注：「2017」は日本の会計年度によるもの)、横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施同年11月～2019年2月に同プログラム2018を実施
泉州	2月～3月：「黄金町×泉州 アートのまちづくりプログラム」泉州海外交通史博物館にて、横浜の初黄・日ノ出町地区における「アートによるまちづくり」の取組みの資料展示及びトークイベントを実施
光州	9月：「東アジア文化都市ネットワーク・メディアフォーラム」に横浜、泉州を含む歴代「東アジア文化都市」に拠点を有するメディアが参加

2019年の主な交流活動

メイン事業

開催地	内容
光州	7月：「2019光州FINA世界水泳選手権大会」を実施祝賀公演に横浜、泉州、済州（2016年文化都市）の芸術団が参加
横浜	9月：「横浜音祭り2019」に横浜、泉州、済州の芸術団が参加
泉州	11月：「第4回海上シルクロード国際芸術祭」を実施 一帯一路の芸術公演ワークショップイベントに横浜、光州、清州（2015年文化都市）、済州の芸術団が参加



▶ 泉州市の行事に参加した
光州公演団

写真提供

（社）アジア文化中心都市造成
支援フォーラム（ACCF）



▶ 光州の行事に参加した
横浜公演団

写真提供

（社）アジア文化中心都市造成
支援フォーラム（ACCF）

その他事業

開催地	内容
横浜	1月：「黄金町×泉州 アートのまちづくりプログラム2018」を実施 泉州よりアーティスト等を招聘し、資料展示及びトークイベントを実施
横浜／光州	7月～8月：「黄金町×光州AIR交換プログラム2019」を開催し、横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施
光州	10月：「2019アジア文化フォーラム」にて「空間とコミュニティ、路地の再発見」というテーマで東アジア文化都市特別セッションを実施

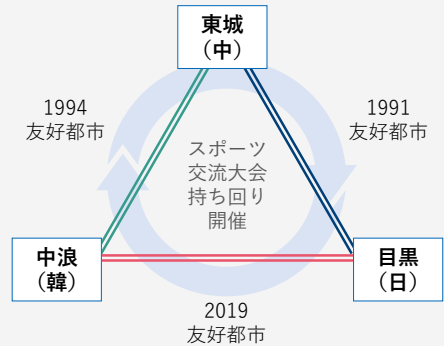
めぐろ とうじょう チュンナン
東京都目黒区（日）—北京市東城区（中）—ソウル特別市中浪区（韓）

前例のない「区」同士のトライアングル交流

東京都目黒区（日本）、北京市東城区（中国）、ソウル特別市中浪区（韓国）の3区は、2017年からスポーツ交流事業を開始した。「区」同士のトライアングル交流は、これまで前例がなく、また、姉妹都市や友好都市関係のトライアングルが完全に形成される前の時点からこのような交流が開始していた点も注目に値する。

三区の交流は、目黒区及び中浪区が、90年代からそれぞれ北京市東城区と友好都市関係であったことに由来する。この縁で、目黒区及び中浪区は、2010年に交流を開始し、2013年には「友好増進及び交流協力覚書」が締結された。

三区による中学生スポーツ交流は、2015年に提案がなされ、翌2016年に実施合意、2017年度から開始となった。その後、目黒区と中浪区の姉妹締結に向けた調整も本格化し、2019年7月に友好都市締結が実現した。また、今後は、スポーツ分野だけではなく、文化交流の分野への拡大についても検討されている。



▶
2019年バスケットボール
親善競技の様子

写真提供
中浪区庁



2016年7月：「三区間協議」にて、中学生のスポーツ交流実施を合意

2016年7月、東城区長の招聘にもとづき、三区間の交流事業の実現と、継続した友好交流関係を築くため、目黒区及び中浪区の代表団が訪中し、三区の実務者による三区間協議を実施した。この協議の結果、①2017年度に次代を担う子どもたちによるスポーツ交流を行うこと、②今回の実施場所は東城区にすること、③対象は中学校2学年の男子生徒とすることなど、今後の交流事業実施の大枠について合意し、詳細について今後実務者レベルで協議していくこととなった。

2017年7月：第1回「三区間スポーツ交流事業」が東城区で開催

2017年7月25日から29日にかけて、第1回の三区間スポーツ交流事業が実施された。この事業は次世代を担う青少年がスポーツを通して、相互理解を促進し、三区間の交流を持続的に推進するという目的で実施された。主な日程は以下の通り。

日程	内容
7月25日(火)	目黒区、中浪区一行、北京着 歓迎晩餐会
26日(水)	三区間バスケットボール大会開会式 第一試合（東城区対中浪区） 第二試合（目黒区対東城区）
27日(木)	第三試合（目黒区対中浪区） 三区間バスケットボール大会閉会式 中国伝統文化体験（うちわづくり、お面の絵付け、北京市第五中学校訪問） 東城区内見学（南鑼鼓巷） 送別晩餐会（東城区人民代表大会主任主催）
28日(金)	三区の学生が共に北京市内を視察（故宮他）
29日(土)	北京発

目黒区作成の事業報告書は、本件事業の成果として、目黒区から参加した区立学第2学年12人の生徒にとって、バスケットボールという共通のルールに基づいたスポーツを通じて、三国の歴史や文化、言葉や考え方の違いなどを超えて、互いを理解し交流を深めることで、国際人として未来に羽ばたいていくための貴重な経験となった旨総括している。各生徒の感想文をみると、①相手国に対するイメージが改善した、②中国、韓国に対する興味をもつようになったとの意見がみられた。印象的なエピソードとしては、試合中に日本人選手が中国人選手に押されて転倒したところ、そのファウルをした選手が立ち上がる手助けをしてくれたことに、国が違って、日本人と同じような優しさが感じられ、嬉しく感じたというものがあり、複数の生徒が紹介をしていた。言語面では、①言葉が通じなくてもプレーを通じて友達になれることに気づいた、②晩餐会では片言の英語とジェスチャーを通じて交流ができた、③英語や他国の言語を学ぶことが大切だと感じた、などといった意見がみられた。

2018年7月：第2回「三区間スポーツ交流事業」が目黒区で開催

2018年7月24日から27日にかけて、2回目の三区間スポーツ交流事業が目黒区で実施された。前年同様、中学第二学年男子生徒によるバスケットボール試合が行われた。

参加した生徒からは、「大好きなバスケット交流できるというのはすごい光栄なこと」（目黒区選抜チーム・キャプテン）、「言葉の交流ではなくスポーツでの技術交流ができ、日本選手からいいところを学ぶことができた」（東城区チーム・キャプテン）、「歓迎会で（日本と中国の）友達が増えた。今後も付き合いを続けていきたい」（中浪区チーム・キャプテン）などの所感があった。

【コラム：言葉が通じない学生たちが交流するために】

3か国の中学生たちは、お互い言葉も通じず、国際交流の経験もない者も多く、最初はなかなかお互いに打ち解けることができない。この問題を解決するために、主催者は、ゲームを通じた「アイス・ブレイキング」に成功した。

そのゲームは、全試合終了後に行われた。大好きなバスケットボールを通じて、選手たちがより交流を深めることができる取組みとして、国の枠を超えて、混成チームを6チームづくり、フリースローによる交流ゲームを行ったのだ。チームごとに話し合い、「投げ役」と「拾い役」に分かれて、1分間に何ゴール入るかを競い合った。言葉は通じなくともジェスチャーで意思を伝え、バスケットボールのゲームを通してお互いの距離が縮まり、この後のグループでの交流活動をスムーズにするきっかけをつくることができた。フリースローの結果は、この日の夕食時に発表し、同点一等が出たため、三国共通の「じゃんけん」を通じて決着をつけるなど、大いに盛り上がった由。

食事の席も、3国の中学生たちが固まらないように工夫し、最初はコミュニケーションができずに困っていた者たちも、通訳の手を借りたり、片言の英語で頑張ったり、ジェスチャーを使ったりして次第に打ち解けていくことができた。携帯電話にあらかじめ自動翻訳機のアプリを入れておき、意思疎通を楽しむ者もいる等、今の時代ならではの工夫をした者もいたという。

2019年7月：第3回「三区間スポーツ交流事業」が中浪区で開催、目黒区と中浪区が友好都市協定を締結

3回目の三区間スポーツ交流事業は、2019年7月23日から26日にかけて、中学生男子生徒によるバスケットボール試合がソウル市中浪区で実施された。

参加した生徒達は、試合のみならず、中浪区に所在する「龍馬滝公園」を訪問、東アジア最大規模の人工滝を見学し、クライミング経験を共に行うことにより、交友を深めた。また、「中浪体験の森」でジップライン体験、「オンギ（味噌甕）テーマ公園」で韓紙工芸、木工芸体験等の文化体験を一緒に行い、思い出づくりの機会となった。

25日には、3区の代表団が集まり、次回の交流種目選定のための協議を行い、その結果、女子生徒も参加可能なバドミントンに決定した。26日には、青木英二目黒区長と柳晷基（リュウ・ギョング）中浪区庁長との間で友好／姉妹都市協定の締結が行われた。これをもって、目黒区、中浪区、東城区の3区が友好都市のトライアングルが確立された。



2019年に日中韓3区の代表が集まり協議2019年に日中韓する様子

写真提供
中浪区庁



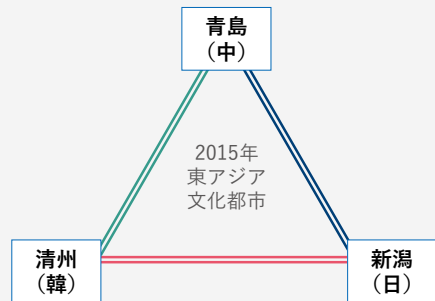
目黒区-中浪区友好都市協定結成式

写真提供
中浪区庁

「東アジア文化都市2015」

新潟県新潟市（日本）、山東省青島市（中国）、忠清北道清州市（韓国）の3都市は、2015年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

2015年の閉幕にあたり、3都市は共同宣言文を採択して継続的な友好・交流を促進していくことが合意された。以降、青少年交流事業（夏の短期交流プログラム）及び文化交流事業（代表的なフェスティバルの公演団派遣）の形で交流活動を中心に活発に交流してきた。



2015. 东亚文化之都・中国青島
2015年東アジア 文化の都・中国青島
2015 Culture City of East Asia • Qingdao, China



동아시아 문화도시
2015 청주
Culture city of East Asia

2015年12月：「2015東アジア文化都市共同」採択、交流持続に合意

新潟市、青島市、清州市は「2015東アジア文化都市青島閉幕式」で持続的な東アジア文化都市交流と協力を約束する共同宣言文が採択され、署名式が行われた。共同宣言文は以下の通り。

1. 3都市は相互協力のもと、文化・芸術分野などにおいて継続的に交流と友好を促進するとともに、民間レベルによる交流の活性化を図る。
2. 東アジア文化都市発展のためお互いの知見や経験を共有し、協力して事業を促進するよう努める。
3. 歴代の東アジア文化都市をはじめとした新たなネットワーク構築を視野に入れて協力連携し、文化の力による社会的課題の解決に貢献する。



共同宣言文に署名をした東アジア文化都市2015の代表者

写真提供
清州市

2016年～： 夏季青少年交流プログラム運営

新潟市、青島市、清州市は文化都市に選定された2015年以降も相互派遣を通して青少年交流事業を継続している。例年、あらかじめ規模・時期・参加青少年の年齢などを決め、夏季休暇中に各都市で3から5日間の短期交流プログラムを実施している。

2016年

主催	日程	参加者
新潟市	7月26日～28日	3市から各15人の青少年が参加
清州市	7月30日～8月2日	3市から各15人の青少年が参加
青島市	8月10日～13日	3市から各15人の青少年が参加

2017年

主催	日程	参加者
新潟市	7月25日～28日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加
清州市	7月30日～8月1日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加

2018年

主催	日程	参加者
新潟市	7月28日～31日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加
清州市	8月1日～4日	新潟市及び清州市から青少年各15人が参加

2019年

主催	日程	参加者
新潟市	7月27日～30日	新潟市及び青島市の青少年が参加 農業やマンガ・アニメなど新潟市の文化体験を通じた交流
清州市	8月1日～5日	3市の青少年が参加。伝統楽器体験、文化施設見学等を通じた交流
青島市	8月11日～15日	青島市及び清州市の青少年が参加（台風の影響により新潟市は不参加） 伝統工芸体験、文化施設見学等を通じた交流

2019 清州市主催青少年文化交流プログラム参加者たちの姿

写真提供
清州市



2020年（予定）

日程	内容
10～11月 [予定]	オンライン開催協議中

2016年～：公演団の相互派遣を通じた連携、文化交流

3都市は、各都市の代表的な行事に公演団を相互派遣し、イベントの国際化を図る一方、文化芸術を通じた市民レベルでの相互理解も促進している。その他、清州市は済州特別自治道、光州広域市、中国の泉州市等の歴代東アジア文化都市とも活発な文化交流を実施してきた点が注目されている。

2016年

主催	日程	内容
新潟市	8月4～8日	「新潟まつり」に青島市、清州市から伝統芸能団等を招待
清州市	11月9～12日	「2016年箸フェスティバル」に新潟市から太鼓演奏グループ等を招待

2017年

主催	日程	内容
新潟市	8月4～7日	「新潟まつり」に清州市及び済州道（韓国、2016年東アジア文化都市）から伝統芸能団等を招待
清州市	11月9～12日	11月10日～19日に実施され「2017年箸フェスティバル」に新潟市太鼓演奏グループを招待

2018年

主催	日程	内容
新潟市	8月10～13日	「新潟まつり」に合わせて清州市から伝統芸能団等、済州道からK-POPダンスグループを招いて公演等を実施
清州市	9月7～10日	9月9日～16日に実施された「2018年箸フェスティバル」に新潟市から太鼓演奏グループ等を招いた

2019年

主催	日程	内容
新潟市	8月10～11日	「新潟まつり」に青島市から伝統芸能団等を招いて公演を実施
清州市	9月20～22日	「2019年箸フェスティバル」に新潟市、青島市、光州市・泉州市（2014年文化都市）、済州道（2016年文化都市）の伝統芸能団を招待
青島市	10月25～28日	26日「2019東アジア文化都市（青島）と“楽しい青島”広場ウィークフェスティバル」閉幕式に新潟市と清州市の伝統芸能団を招待 27日には東アジア文化都市実務者会議を開催

▶
清州市主催「2019年箸フェスティバル」に参加した新潟市
伝統芸能団

写真提供
清州市



▶
青島市で開催された「2019
東アジア文化都市実務者会議」

写真提供
青島市



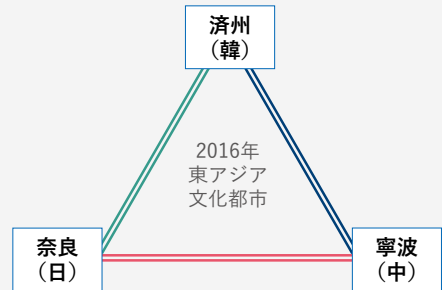
2020年

主催	日程	内容
新潟市	6月16日～9月14日	東アジア文化都市交流事業パネル展 (複数の会場にて開催)
清州市	10～11月 [予定]	オンライン交流
青島市	未定	青島東アジア文化都市フェスティバル

なら になぼー チェジュ
奈良市（日） — 寧波市（中） — 濟州特別自治道（韓）

「東アジア文化都市 2016」

奈良県奈良市（日本）、浙江省寧波市（中国）、濟州特別自治道（韓国）の3都市は、2016年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。閉幕にあたり、3都市は「東アジア文化都市2016奈良宣言」「東アジア文化都市寧波提議」「東アジア文化都市2016濟州文化宣言」を採択し、今後の文化交流の継続について約束した。これを受けて、現在、3都市は、それぞれの地域で青少年交流事業を実施し、そこにパートナー都市が参加する形態で交流行事を実施している。



また、濟州は、各種行事への参加・招待を通じて、別の年の東アジア文化都市との交流も活発に実施しているのが特徴である。寧波は、濟州、奈良における交流行事に青少年を派遣するとともに、同市にて開催される青少年交流プログラム等の行事に奈良や濟州の学生を招待している。また、同地で行われた文化行事に奈良と濟州の学生を招いた実績もある。



2016年12月 寧波提議、奈良宣言、濟州文化宣言に署名、交流持続へ

奈良市、寧波市、濟州特別自治道は2016年東アジア文化都市として活動を終え、1年間の協力を土台に、日中韓の都市の間で持続的な文化交流を行うため、「東アジア文化都市寧波提議」（12月7日）、「東アジア文化都市2016濟州文化宣言」（12月26日）、「東アジア文化都市2016奈良宣言」（12月26日）にそれぞれ署名をした。3都市はこの合意に基づき現在まで活発な青少年交流及び文化交流を推進している。

▶
「東アジア文化都市
2016奈良宣言」署名式

写真提供
奈良市



▶
「東アジア文化都市
2016済州文化宣言」署名式

写真提供
済州特別自治道



奈良による取組み

東アジア文化創造NARAクラス

奈良市が主導し、寧波及び済州と連携しつつ実施している青少年交流。募集した奈良の若者は、まず、講座とガイダンスで日中韓の文化を学ぶと同時に、奈良を海外の人に紹介できるよう学習する。続いて、中韓から招いた若者に、奈良の文化を体験し、相互理解と交流を深める。さらに、希望者は、寧波又は済州を訪問し、各都市で開催される青少年交流プログラムに参加する。最後に、全体の報告会を実施する形となっている。

奈良の高校生及び大学生を、一定期間に複数の段階で行事に参加させることを通じて、より深く学び、相互理解を目指している点に工夫がみられる。また、3国で持ち回りで実施するのではなく、パートナー都市が実施する行事への参加を通じて事業を展開している点も特徴である。

2019年度日中韓青少年交流
プログラムin NARA

写真提供
奈良市



2019年の実施例

(2018年以前も実施)

- ① 「東アジア学びの扉」 (6月16日:参加者ガイダンス、7月7日:フィールドワークとワークショップ、7月21日:ワークショップの成果発表)
- ② 「日中韓 青少年交流プログラムin NARA」 (8月24日及び25日、日中韓の大学生と高校生(奈良市から20人、寧波から10人、済州から10人)が奈良市に集まり、「自身の地域、まちの隠れた魅力」をテーマに、写真+詩+音楽の形式で発表、演劇で意思疎通をするプログラム等、文化交流を実施。)
- ③ 「東アジアへの旅」
中国・寧波青少年交流プログラムへの参加(8月8日~11日)
韓国・済州青少年文化芸術キャンプへの参加(9月20日~24日)
- ④ プログラム報告会(9月29日)

2020年の実施例(予定)

「オンライン交流」

- ① 3都市交流スタートプログラム(9月21日)
- ② リモート型グループワーク(9月27日、10月24日)
- ③ 成果発表会(11月23日)

寧波による取組み

寧波市では寧波国際大学生祝祭や青少年交流プログラムなどを通じて、奈良市、濟州道とそれぞれ活発な交流を続けてきた。また、毎年多様なテーマとプログラムに基づいて日中韓交流事業を運営している。

イベント名	日程	内容
寧波国際大学生祝祭（濟州道の大学生を招待）	2017年6月	2012年から開催されている同イベントは日中韓を含めた約200人の海外大学生と中国内の大学に在学中の留学生が約4日間交流するプログラム。中国文化体験、現地訪問、寧波市の大学生との交流等、様々な活動に参加する。
	2018年7月	
	2019年6月	
2地域の青少年交流プログラム（奈良市の高校生を招待）	2017年11月	浙江省紡績職業技術学園への訪問、中国書画、伝統工芸等の体験
	2018年9月	博物館、天一閣、寧波市溶鋼職業高等学校への訪問、月餅作り体験
	2019年	「日中韓交流プログラムin Ningbo」として実施（下記参照）
日中韓交流プログラムin Ningbo	2017年11月	「日中韓の陶芸伝承者の展示会」と「日中韓伝統交流」（展示・ワークショップ）
	2018年6月	寧波市象山県第1回海洋漁業文化保護祭に奈良市、濟州、清州市（2015年文化都市）参加
	2019年8月	「鏡像寧波」*日中韓学生の写真文化交流プログラム開催 専門家と共に寧波の歴史・文化遺跡を見学し、チーム別に撮影した展示作品を発表 *鏡像: 鏡に映して左右が反転している状態



濟州による取組み

「濟州文化外交官」

このプログラムは東アジア文化都市の文化交流事業の一環として行なっている。日中韓青少年文化芸術キャンプなど、国際文化交流に参加する青少年たちが濟州の文化についての深い理解と国際理解を深めた人材を養成することを目指している教育プログラムである。

濟州とUNITAR（国連訓練調査研究所）濟州国際研修センターが、2018年から共同で実施している。約40人の学生が選抜され、濟州文化クラス（国内、年4回実施）と日中韓青少年文化キャンプ（国外）など、多様な活動を行なっている。

日中韓文化都市濟州青少年文化キャンプ

2016年以降毎年4日間かけて実施している同キャンプは、初期には東アジア文化都市のフォローアップ事業の一環として3都市を中心に運営されていたが、2018年からは濟州と交流のある各日中韓の都市から100人前後の青少年が参加する大規模行事となっている。

東アジア文化都市濟州青少年文化キャンプのこれまでの開催状況

回	日程	参加都市 (東アジア文化都市指定年度)	内容
第1回	2016年7月 26～28日	日本：奈良（2016） 中国：寧波（2016） 韓国：濟州（2016）	書道と写真の部門に分け、各分野の濟州の芸術家と交流
第2回	2017年8月 16～19日	日本：奈良 中国：寧波 韓国：濟州	「持続可能な海の話」をテーマに、音楽、写真、美術の3分野のメンターが参加50人の日中韓青少年に現場見学、討論、ワークショップ等の多様なプログラムを提供。

第3回	2018年5月 9～12日	日本：沖縄 (奈良市は済州で開催された 参加) 中国：泉州(2014)、寧波、大 連、上海 韓国：済州,光州(2014)、清州 (2015)、大邱(2017)	「アップサイクリングを通じた持 続可能な生活と芸術」をテーマに 日中韓の青少年が、音楽・美術・ 映像の3チームに分かれ、分野別に メンターと一緒にプロジェクトを 実施
第4回	2019年9月 20～23日	日本：奈良、山梨、佐賀 中国：寧波 韓国：済州、清州(2015)	「地球の話」をテーマに日中韓青 少年が写真、音楽、美術、ダンス の4チームに分かれ、使い捨て用品 の削減、海水を活用した写真の焼 き増し体験、地球模型の製作など 環境に優しい芸術プロジェクトを 実施
第5回	2020年9月 21日 ～11月15日 [予定]	日本：奈良 中国：寧波 韓国：済州	オンラインで開催

耽羅文化祭における国際文化交流イベント

済州最大の文化行事「耽羅文化祭」に、過去の東アジア文化都市等の日中韓アーティストを招き、公演を行うとともに、地元の小学校で「子供たちへの日中韓文化体験教室」（公演とワークショップ）を実施している。この文化教室は、2016年に参加した日本（奈良）側公演者が、ぜひ子ども達に教えたいと申し出たことから実現し、好評だったことからその後定着するに至ったもの。毎年、済州内の小学校を一つ選定し、日中韓の伝統文化芸術の公演、日中の文化教室などを行なっている。済州の文化教室に招かれた他の日本側都市が、この方法を逆に日本の文化交流行事に取り入れた事例もある。

2019年参加生徒の感想

▲中国公演団の龍舞がかっこよく、中国に旅行に行きたくなった。▲日本の踊りを実際に踊ることができて嬉しかった。公演団の先生とハイタッチしたことが記憶に残っている。▲また機会があれば、違う体験もしてみたい。



「子供たちへの日中韓文化体験教室」（寧波市）
中国「牡丹」絵画プログラム

写真提供
濟州特別自治道

これまでの開催状況

日程	日中参加地域(東アジア文化都市指定年度)
2016年	奈良(2016)
2017年	横浜(2014)、奈良、泉州(2014)、寧波(2016)
2018年10月	京都(2017)、泉州、寧波、上海、海南省
2019年10月	青森、東京、泉州、寧波、上海、海南省
2020年10月[予定]	奈良、横浜、青森、北海道、泉州、寧波、西安(2019)、上海

日中韓文化コラムニストとの濟州周遊

濟州は2019年12月20～23日、東京、青森、北海道、中国・寧波市、泉州市で地域別に文化芸術ジャーナルコラムニスト、映像作家、イラスト作家など約30人を迎え、「日中韓文化コラムニストとの濟州セミナー」を開催した。新しい文化トレンドで注目された独立系書店を中心に、特色のある美術館、建築物、地域色が出る公共の空間などを見学し、日中韓コラム専門家の多様な視覚を記録・取材した。濟州で活動する芸術家との交流プログラムも実施した。

他の東アジア文化都市の文化行事への参加

濟州は、他の年度の東アジア文化都市行事等にも積極的に参加している。

日程	開催地(東アジア文化都市指定年度)
2017年	新潟(2015)、泉州(2014)、清州(2015)、光州(2014)主催のイベントに公演団と学生を派遣
2018年	横浜(2014)、新潟、ハルビン(2018)、清州、大邱(2017)主催のイベントに公演団を派遣
2019年	横浜、西安市(2019)、泉州、清州、大邱、光州主催のイベントに公演団等を派遣
2020年	[未定]

長崎県（日） — 上海市（中） — 釜山広域市（韓）

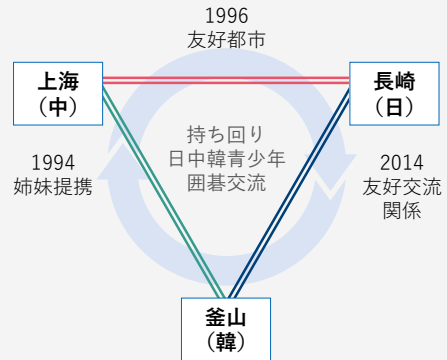
青少年囲碁交流を通じた日中韓交流

長崎県、上海市、釜山広域市は、ともに互いの国への玄関口となる港湾を擁していることに共通点を有している。

上海市と釜山広域市は1993年に姉妹／友好都市締結、96年には長崎県と上海市が友好都市締結、2014年には長崎県と釜山広域市が友好交流協定を締結し、三地域間のトライアングルが形成された。

以降、三地域は実務者会合を重ね、その成果として、2017年釜山で開催された第3回実務者会議の際に、長崎県の提案で青少年囲碁交流大会の開催が決定した。2018年1月に第1回の青少年囲碁交流大会が上海にて実施され、翌19年には長崎県で第2回が実施された。

釜山広域市は、2018年の東アジア文化都市として、パートナー都市の金沢市とハルビン市と交流も継続している。



2015年～： 交流担当課長会議の開催

日中韓の交流担当課長会議は2014年5月に開催された釜山市と長崎県の交流担当課長会議で、長崎県が長崎—上海—釜山の3者会議を提案したことによって始まった。2015年に上海で開催された第1回交流担当課長会議以降、毎年6～8月に2泊3日の日程で持ち回りで開催されている。同会議では、推進事業の点検や各都市の希望交流事業についての議論が実施される。

これまでの開催状況

回	日程	開催地	テーマ
第1回	2015年	上海	2都市の青少年交流事業を3都市の事業に拡大
第2回	2016年	長崎	ウェブサイトの相互リンク、情報提供、クルーズ船の観光客誘致などの観光に関する提案
第3回	2017年	釜山	3都市の青少年囲碁交流大会と福祉交流
第4回	2018年	上海	高齢者福祉、都市PR、文化財の保護関連の交流事業
第5回	2020年 [予定]	長崎 (オンライン 開催協議中)	青少年トライアングル交流会について、交流演奏会、囲碁交流大会、交流芸術祭及び日中韓少年サッカー大会について

2018年～：3国持ち回りで青少年囲碁交流大会を実施

同青少年囲碁交流大会は姉妹／友好都市関係にある3都市間の交流拡大を図るほか、参加者の囲碁競技レベルの向上、国際的視野の広がりや国際コミュニケーション能力の向上、3国の歴史と文化の理解の増進を目的としている。毎年約20人の日中韓の学生が参加し、3泊4日間囲碁競技、文化施設・歴史施設の見学、交流活動等を実施している。

囲碁を通じた三都市・地域間の交流は、他に「唐津（日）－揚州（中）－麗水（韓）」と「金沢（日）－蘇州（中）－全州（韓）」の事例がみられるが、「長崎－上海－釜山」の場合、参加者の年代は13～18歳で、比較的年齢層が低いのが特徴である。囲碁は、3国共通の文化であり、共通のルールであるため言語の壁がないことも特徴だ。主催者側は通訳を用意してはいるものの、参加者たちは、言葉は通じなくとも、囲碁の手を教え合うことは可能であり、通訳なしでコミュニケーションをすることも多かった由である。

これまでの開催実績

回	日程	開催地
第1回	2018年1月	上海
第2回	2019年1月	長崎
第3回	2020年 [予定]	釜山（オンライン開催協議中）

きょうと

京都市 (日)

ちょうさ

長沙市 (中)

テグ

大邱広域市 (韓)

「東アジア文化都市 2017」

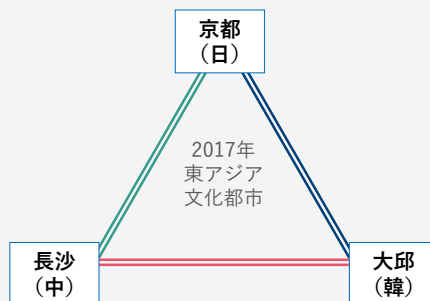
京都府・京都市（日本）、湖南省・長沙（中国）、大邱広域市（韓国）の3都市は、2017年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

同年11月19日、京都閉幕式の際、3都市の市長は「東アジア文化都市2017京都共同宣言」に署名した。同宣言は、以下を骨子としている。

1. 次世代のアーティストの育成を目指し、芸術系大学生の交流等、若者の文化交流を継続していく。
2. 未来志向の関係構築のために、市民、文化芸術団体、大学、企業等、民間の文化交流活動の機会を創出し、都市の魅力を高め合う。
3. 東アジア文化都市のネットワーク構築のために幅広い交流促進に努め、持続可能な都市の発展を推進するとともに、東アジアの平和的発展に貢献する。

同宣言に基づき、2018年以降の交流は、主として「青少年交流」（芸術系大学生等の相互訪問・交流）と、「文化交流」（相手都市で行われる文化イベントに参加）の2つに大別される。

前者の青少年交流も、東アジア文化都市のフォローアップ事業という観点から、文化・芸術系の学生・若者の交流に比重が置かれているのが特徴である。



写真提供 京都市



東アジア文化都市 2017 京都
CULTURE CITY OF EAST ASIA 2017 KYOTO



东亚文化之都・长沙
2017 Culture City Of East Asia · ChangSha



2018年8月：京都及び大邱で青少年交流事業を実施

「京都共同宣言」にもとづき、京都市及び大邱広域市において、青少年交流事業が実施された。

京都市における交流プログラム

8月10日から13日にかけて、京都及び大邱の文化芸術を学ぶ大学生が集い、京都の暮らしの文化、伝統産業に触れるフィールドワークやグループワークを通して、日本と韓国の文化の共通性・多様性について意見交換を行い、共同でマンガを制作し、成果発表を行った。

京都市からは京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都美術工芸大学、「京都学生PR大使」の学生など8名が参加し、大邱広域市からは、慶北大学、大邱カトリック大学等より6名が参加した。



写真提供
京都市



大邱広域市における交流プログラム

8月30日から9月2日にかけて、京都及び大邱の音楽を学ぶ大学生が大邱広域市に集まり、交流プログラムに参加した。大邱広域市の文化施設や音楽コンクール本選の見学、セミナーへの参加のほか、2018ポジャギフェスティバルでの公演等、多様な活動に参加した。京都市からは同志社女子大学学芸学部音楽学科の学生8人が、大邱広域市からは慶北大学及び啓明大学等から9人の学生が参加した。

2018年8月：大邱「2018東アジア・ポジャギフェスティバル」に京都、長沙から参加

8月31日から9月2日にかけて、京都市及び長沙市は、大邱広域市で行われた「2018東アジア・ポジャギフェスティバル」に前年に引き続き、参加した。「ポジャギ」とは、物を包む風呂敷のような布のこと。「大邱ポジャギフェスティバル」は、ポジャギの包容性と多様性を象徴とし、東アジアの代表的な文化フェスティバルを目指し、東アジア文化都市に指定されていた2017年から始められた。

期間中、日中韓の若手アーティストによる音楽、舞踊、美術分野などのストリート・パフォーマンス「青年芸術祭」が行われ、京都市から現代舞踊家が派遣された。また、「三国和合伝統公演」においては、三都市の音楽家による伝統音楽公演等が行われた。また、「ポジャギ作品・体験展」においては、日中韓の伝統工芸品が出展され、市民向けの体験ワークショップが実施された。京都市及び長沙市から伝統工芸の職人が派遣された。

東アジア文化都市に選定された歴代韓国都市の広報ブースも設けられ、光州広域市（2014年）は観光名所VR体験、清州（2015年）は「箸フェスティバル」に関連して箸づくり及び教具体験、済州特別自治道（2016年）は柿渋染体験プログラムを実施した。

2018年11月：京都市「kokoka（国際交流会館）オープンデイ 2018・京都市平和祈念事業」に大邱から参加

京都市には、約4万人（人口の約3%）の外国籍の人々が暮らしており、外国につながりを持つ人とのふれあいや交流の機会が、身近なものとなっている。11月3日、京都国際交流会館（kokoka）にて、国や地域を超えた人と人とのふれあいや異文化を楽しむことにより、異文化への理解を進めるとともに、平和の尊さを感じてもらうため、「kokokaオープンデイ2018・京都市平和祈念事業」を開催した。同事業では、東アジア文化都市交流事業とタイアップし、日中韓三か国の芸術家によるステージパフォーマンスが行われ、大邱市からは伝統楽団が参加した。

2019年3月：「KYOTO STEAM」の日中韓ステージに長沙、大邱参加

3月23日から24日にかけて、京都市は、東アジア文化都市の交流の継続により、文化の力で東アジアの平和的発展に貢献するため、「KYOTO STEAM - 世界文化交流祭-Prologue」とタイアップし、日中韓3都市の文化芸術団体による日中韓ステージを実施した。京都からはブレイクダンス、パントマイム及びマジック、長沙市からはクラシック音楽、大邱広域市からは伝統音楽、現代舞踊及びミュージカル・ガラのアーティストがそれぞれ参加した。



◀
(上) 長沙の芸術家による公演
(下) 大邱の芸術家による公演

写真提供
京都市

2019年7月～：青少年交流と相互の文化イベントへの参加によるフォローアップ事業持続

青少年交流

京都実施：8月7日から11日、京都及び大邱の芸術分野（デザイン、写真）を専攻する大学生それぞれ9人が参加し、フィールドワークや文化体験プレゼンテーション等を実施した。

大邱実施：11月8日から11日、京都及び大邱のフルートを専攻する大学生それぞれ9人ずつが参加し、文化体験や同時期大邱で行われた「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」の公演に参加した。

文化交流

京都実施：11月3日の「kokokaオープンデー」のステージで日中韓文化公演を実施し、大邱から10人規模の公演団が参加した。

大邱実施：11月9日から10日、「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」にて京都からDAISUKE STREET CIRCUS、長沙から青年舞踊団の舞踊と変面、大邱から大邱市立国楽団のヒャンバルム（韓国の古典舞踊の一種）が参加し、公演を行った。また、日中韓のアーティスト・イン・レジデンス展示、日中韓文化体験ブース、三国フードブース等が運営された。

▶
「2019東アジア・ポジャギ
フェスティバル」
[日本]織物作り体験

写真提供
大邱広域市



▶
「2019東アジア・ポジャギ
フェスティバル」
[中国]伝統アクセサリー
「結」作り

写真提供
大邱広域市



▶
「2019東アジア・ポジャギ
フェスティバル」
[韓国]天然黄土染色体験

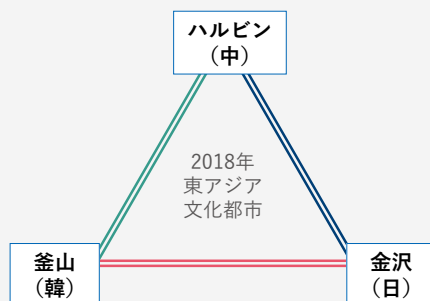
写真提供
大邱広域市



「東アジア文化都市2018」

石川県金沢市（日本）、黒龍江省ハルビン市（中国）、釜山広域市（韓国）の3都市は、2018年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。2019年からは、フォローアップ事業を掲げ、文化行事にアーティストに相互派遣している。

なお、金沢市は蘇州市（中国）及び全州市（韓国）との姉妹／友好都市関係を基盤に図書館や囲碁の交流を行っており、釜山広域市は、長崎県及び上海市と友好協力関係又は姉妹／友好都市関係にあり、青少年囲碁交流大会を持ち回りで実施しているなど、他の3都市トライアングル交流も実施している。



金沢市、ハルビン市、釜山市は2018年東アジア文化都市のフォローアップ事業を2019年以降にも継続している。3地域は、各都市で開催している多様な文化イベントにアーティストを相互に派遣するなど、活発に活動をしている。

2019年フォローアップ事業

日程	内容
8月2～3日	ハルビン市が主催の2019「魅惑的なハルビンの夏」第3回中国・ロシア文化芸術交流週間「文化都市・友好都市」クラシック公演シリーズにオーケストラ・アンサンブル金沢弦楽四重奏が参加。
8月23～24日	ハルビン市が主催の2019「魅惑的なハルビンの夏」第3回中国・ロシア文化芸術交流週間「文化都市・友好都市」クラシック公演シリーズに釜山市立交響楽団金管五重奏団が参加。
9月21～22日	釜山の文化行事「東アジア文化の森」に金沢及びハルビンの芸術家が参加。（韓国チェリスト、中国バイオリニスト、日本ピアニストによるクラシックの共演、日本横笛－中国二胡－韓国カヤグムによる日中韓伝統楽器の共演、釜山広域市のトンレ区で伝承される仮面劇であるトンレヤリュ、変面、雑技団等、伝統公演・日中韓の伝統遊び体験、東アジア茶道体験、金沢の伝統工芸ブース出展など多様な文化体験行事を実施）。
10月18～20日	金沢市が主催する金沢市立千坂小合唱団「ドリーム」との交流行事、「金沢駅鼓門ナイトパフォーマンス」、「創立70周年 金城民謡まつり」にハルビン歌劇院民族楽団員及び釜山市立少年少女合唱団が参加。

▶
ハルビン主催「文化都市・友好都市」クラシック公演シリーズに参加した釜山市立交響楽団

写真提供
ハルビン市



▶
釜山主催「2019 東アジア文化の森」日中韓クラシック共演

出典
釜山市立芸術団



▶
金沢主催「金城民謡まつり」に参加したハルビン芸術団

写真提供
ハルビン市



2020年フォローアップ事業

釜山市は「2019東アジア文化の森」にハルビン市と金沢市を招待予定。

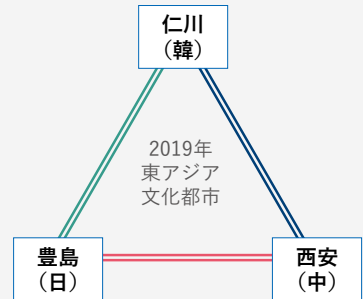
としま せいあん インチョン
東京都豊島区 (日) — 西安市 (中) — 仁川広域市 (韓)

「東アジア文化都市2019」

東京都豊島区（日本）、陝西省西安市（中国）、仁川広域市（韓国）の3都市は、「東アジア文化都市2019」に選ばれ、「東アジア（日本・中国・韓国）の文化交流と平和」というテーマで1年を通じて多様な文化交流プログラムを展開した。

また同年11月には、この1年間の交流を通して得た成果をもとに、これからの持続的な協力を促進するため「東アジア文化都市共同宣言2019」に署名した。12月には、「東アジア文化都市InXiTo文化観光事業協力合意書」を締結した。2020年には日中韓合唱祭などのフォローアップ事業を開催する予定。

一方、仁川市は中国・大連市、日本・北九州市と2010年から友好博物館交流事業の実施をはじめ、以後毎年博物館長会議と実務者会議を開催している。2012年からは1年ごと巡回展示と共同企画展示を実施してきた。



2019年11月：「東アジア文化都市共同宣言2019」を締結、交流の持続に合意

豊島区、西安市、仁川広域市は2019年東アジア文化都市として文化交流、公演、フェスティバル、展示会と体験イベント、写真展、合唱団などの充実した交流事業を推進してきた。3都市は1年間の交流を通して得た成果をもとに、さらなる持続的な協力を促進するため、2019年11月に開催された東アジア文化都市2019豊島・閉会式にて「東アジア文化都市共同宣言2019」に署名をした。宣言文の内容は以下のとおりである。

1. 3都市は、人的、文化的な都市間交流を積極的かつ継続的に実施することにより、相互の関係をより強固なものにしていく。
2. 3都市は、文化芸術をはじめ、産業・観光等様々な分野における民間レベルによる継続的な交流を促し、その活性化を図る。
3. 3都市の代表と関係部署は、相互の交流によって生み出された成果を毎年確認する。

▶
 「東アジア文化都市共同宣言
 2019」に署名をした
 3都市の代表者
 (2019年11月
 豊島区閉幕式典)

写真提供
 豊島区



2019年12月：「東アジア文化都市InXiTo文化観光事業協力合意書」締結、文化観光分野での協力拡大

3都市は2019年12月に開催された東アジア文化都市2019西安市閉幕式にて「東アジア文化都市InXiTo文化観光事業協力合意書」を締結し、文化観光の分野で協力を強化することに合意した。

▶
 「東アジア文化都市InXiTo文化
 観光事業協力合意書」締結
 (2019年12月
 西安市閉幕式典)

写真提供
 西安市



2020年フォローアップ事業

開催地	日程	内容
西安	11月 [予定]	「唐詩之城」行事に仁川と豊島区招待予定
仁川	11月 [予定]	日中韓合唱祭に豊島区と西安市を招待予定

きたぎゅうしゅう

北九州市 (日)

ようしゅう

揚州市 (中)

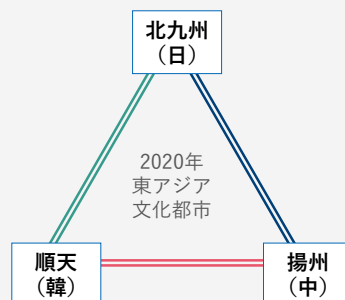
スンチョン

順天市 (韓)

「東アジア文化都市2020」

福岡県北九州市（日本）、江蘇省揚州市（中国）、全羅南道順天市（韓国）の3都市は、自然環境と繋がりが強い「生態都市」という共通点を持っている。北九州市は工業都市として、急速な発展過程で発生した公害問題を克服したという経験により、2011年にOECDから「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として選ばれた。揚州市は「国家文化観光模範地域」である蜀岡瘦西湖風景名勝地区という観光地を有する都市である。順天市は湿地を有しており、世界初の「ラムサール条約湿地都市」として認定された。

新型コロナウイルスの影響により、北九州及び順天は2021年も東アジア文化都市として様々な交流事業を継続する予定だ。一方、揚州市は佐賀県唐津市と韓国・全羅南道麗水市と共に1999年から日中韓交流都市囲碁親善大会を実施している。北九州市は中国・大連、韓国・仁川広域市と2010年から友好博物館交流事業を実施している。



2020年東アジア文化都市選定式にて
3国の文化担当大臣から盾を受け取る文化都市の代表
(左側から北九州市長、順天市長、揚州市副市長)

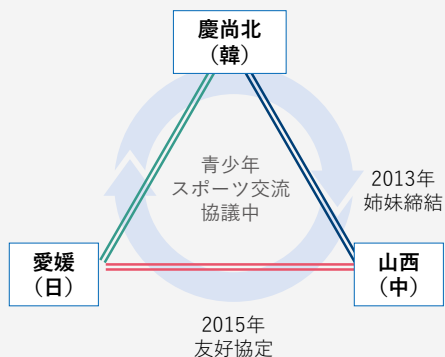
出典
日中韓三国協力事務局

愛媛県（日） — 山西省（中） — 慶尚北道（韓）

日中韓3か国地方政府交流会議を機に、3県省道の青少年スポーツ交流推進に合意

愛媛県、中国・山西省、韓国・慶尚北道の3県省道交流は比較的新しい。山西省と慶尚北道は2013年4月に姉妹都市協定を、愛媛県と山西省は2015年友好都市協定を結んだ。

2019年10月愛媛県で開催された「第21回日中韓3か国地方政府交流会議」を契機に、愛媛県—山西省—慶尚北道の3者会合が開催された。同会合の場で、慶尚北道の提案を受け、2020年から3県省道で青少年スポーツ大会を開催することに合意した。



2019年10月「日中韓3か国地方政府交流会議」を契機に、初の3者会合

3地域は2019年10月28日、第28回日中韓3か国地方政府交流会議のサイドイベントである「交流の広場」で初の3者会合を実施した。同会合における慶尚北道の提案を受け、現在、青少年交流事業を3国の持ち回りで実施する方向で実務者レベルで調整が進められている。

▶
愛媛県—山西省—慶尚北道
3者会合

写真提供
慶尚北道



第2章

3 国の地方都市交流メカニズムと行事



東アジア文化都市

文化を通じて3都市が交流する大型事業



「東アジア文化都市」事業は、2012年5月に行われた第4回日中韓文化大臣会合（於：上海）での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、その国の伝統文化を代表する文化都市または文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、

様々な文化芸術イベント等を実施するとともに、3都市を行き来しながら文化交流行事を実施する事業である。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指している。先行事例として、ヨーロッパ連合(EU)とASEANが1985年と2008年からそれぞれ実施している「欧州文化首都」と「ASEAN文化都市事業」がある。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としている。この観点から、3都市は、その年以降も日中韓文化交流や青少年交流を継続してきた。また、各国が過去の東アジア文化都市との交流強化や、欧州文化首都やASEAN文化都市との連携にも力を入れている。



日中韓都市間のトライアングル交流は、東アジア文化都市のフォローアップ事業が順調に継続する場合、毎年1つつ交流都市のトライアングルが増加していくため、日中韓3国の民間の相互理解の増進にとって貴重なレガシーとなっていくことが期待される。

これまでの「東アジア文化都市」

選定年度	日本	中国	韓国
2014年	横浜市*	泉州市	光州広域市
2015年	新潟市	青島市*	清州市
2016年	奈良市	寧波市	済州特別自治道*
2017年	京都市*	長沙市	大邱広域市
2018年	金沢市	ハルビン市*	釜山広域市
2019年	東京都豊島区	西安市	仁川広域市*
2020年	北九州市*	揚州市	順天市

(*は、日中韓文化大臣会合開催地)



東アジア文化都市2020の3地域のロゴ

資料提供

上から日本・北九州市、中国・揚州市、韓国・順天市

▶
 第11回日中韓文化大臣会合
 (「東アジア文化都市
 2019」
 仁川広域市開催)

出典
 日中韓三国協力事務局



東アジア文化都市、2014年以降日中韓文化大臣会合の開催地に

日中韓文化大臣会合は、3国が文化協力と交流に関して話し合うために、毎年持ち回りで開催されている大臣レベルの政府間会議である。文化分野の重要性の認識を共有し、共同事業を推進してきた。東アジア文化都市2014事業を機に、開催国の該当年度の文化都市で開催された。毎年大臣会合と連携し、次年度の東アジア文化都市選定式が開催される。2020年には日本の北九州市で第12回日中韓文化大臣会合が開催される予定。

2014年以降の開催実績

回	日程	開催地	共同文章
第6回	2014年11月29日	横浜市	「横浜共同声明」
第7回	2015年12月19～20日	青島市	「青島行動プラン」
第8回	2016年8月27～28日	済州特別自治道	「2016済州宣言」
第9回	2017年8月25～26日	京都市	「京都宣言」
第10回	2018年8月29～31日	ハルビン市	「ハルビン行動計画」
第11回	2019年8月29～30日	仁川広域市	「仁川宣言」
第12回	2020年12月 [予定]	北九州市	



「東アジア文化都市円卓会議」

写真提供
寧波市



「東アジア文化都市友好碑」
除幕式

写真提供
寧波市

2016年12月：寧波市主催「東アジア文化都市円卓会議」

2016年12月7日、寧波市は、東アジア文化都市閉幕式に合わせ、「東アジア文化都市円卓会議」を開催した。同年の東アジア文化都市である濟州と奈良をはじめとし、中国文化部（当時）、歴代の東アジア文化都市である泉州市（2014年）、青島市（2015年）、長沙市（2017年）、光州広域市（2014年）、清州市（2015年）、大邱広域市（2017年）の代表が参加した。各都市の代表は、「東アジア文化都市事業が都市発展促進に果たした役割と、東アジア文化都市の交流・協力の強化策」をテーマに発表を行い、「東アジア文化都市寧波提議」に署名を行った。また2014年から2017年の12の東アジア文化都市の名前を日本語、中国語、韓国語で刻んだ「東アジア文化都市友好碑」除幕式が同時に開催された。

▶
東アジア文化都市サミット

写真提供
京都市



▶
「東アジア文化都市サミット
京都宣言」署名式

写真提供
京都市



2017年8月：京都で「東アジア文化都市サミット」開催

2017年8月26日、東アジア文化都市2017の京都市が主催、文化庁が支援をした同行事が国立京都国際会館で開催された。2014年から2018年の東アジア文化都市とASEAN文化都市などから19人の代表者が集まり、各都市の文化都市活動の成果を共有し、東アジア文化都市事業の発展につき議論した。同行事で採択された「東アジア文化都市サミット京都宣言」では、以下の点が盛り込まれた。

1. 若い世代の交流に継続して取り組むとともに、市民、団体、企業などによる幅広い交流の機会を創出する。
2. 東アジア文化都市のネットワーク強化や事業充実にむけた方策を議論する有識者会議に参画し、事業の発展に貢献する。
3. 文化を通じた幅広い交流の促進と連携強化、ASEAN文化都市との連携を視野に入れた更なる発展に向け、今後も「東アジア文化都市サミット」を開催する。

参加国	参加した東アジア文化都市（選定年度）/ASEAN
日本	横浜市(2014)、新潟市(2015)、奈良市(2016)、京都市(2017、主催都市)、金沢市(2018)
中国	泉州市(2014)、青島市(2015)、寧波市(2016)、長沙市(2017)、ハルビン市(2018)
韓国	光州広域市(2014)、清州市(2015)、済州特別自治道(2016)、大邱広域市(2017)、釜山広域市(2018)
ASEAN	フィリピン、シンガポール、ベトナム、ブルネイ



◀ 「ASEAN+3文化都市ネットワーク」発足式記念集合写真

出典
日中韓三国協力事務局

2019年10月：中国・揚州市で「ASEAN+3文化都市ネットワーク」発足式開催

2019年10月24日から26日にかけて、中国揚州市にて、「ASEAN+3 (APT)文化都市ネットワーク発足式」が開催された。同行事は、中国文化観光部が主催の下、日中韓の東アジア文化都市、ASEAN文化都市代表団、各国の関係者約200人が参加し、APT文化都市ネットワークの発足が宣言され、同宣言文において、(1)相互理解と信頼の向上、(2)文化交流事業の促進、(3)観光業界の協力の強化、(4)青少年交流の推進について合意された。

2019年：東アジア文化都市事業発展のため、各国の文化都市の間で連帯強化の取り組み



◀ 中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」

写真提供
中国文化観光部

中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」

2019年8月13日から14日にかけて、東アジア文化都市2019の中国・西安市で初めての中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」が開催された。同プログラムは中国の文化観光部が主催した。2014年から2019年の中国の歴代文化都市と2020年に選定された揚州市、東アジア文化都市2019である日本・東京都豊島区と韓国・仁川広域市の代表団、文化省庁の関係者及び専門家等の約100名が出席した。このプログラムを通じて、歴代の東アジア文化都市は事業運営の経験と今後の事業計画を共有した。また、「東アジア文化都市の申請、審査、選定と管理の実施方法」、「東アジア文化都市の申請条件と評価基準」など東アジア文化都市のブランド発展のための提案を専門家が発表した。

▶
2019年度東アジア文化都市
協力ワークショップ

出典
日中韓三国協力事務局



韓国「2019年度東アジア文化都市協力ワークショップ」

韓国の初代東アジア文化都市である光州広域市の「(社)アジア文化センター都市造成支援フォーラム」は、2019年12月10から11日にかけて、「2019年度東アジア文化都市協力ワークショップ」を開催した。同ワークショップは、韓国の歴代東アジア文化都市の実務者が緊密なコミュニケーションと協力を通じて交流事業の向上を図り、3国で生じた環境の変化に対する文化都市の協力を議論するために2019年に初めて開催された。光州広域市その他、韓国の4地域（清州市、済州特別自治道、釜山広域市、順天市）、日中韓三国協力事務局など関係機関から15人が参加した。

日中韓 3 国地方政府交流会議



◀
第 2 1 回日中韓 3 か国
地方政府交流会議

出典
日中韓三国協力事務局

3 か国の地方政府が一堂に会する大型行事、1999 以来毎年開催

「日中韓 3 か国地方政府交流会議」は、歴史的、地理的にも密接な関係にある日中韓 3 か国の地方政府間の国際交流・協力を一層促進することを目的に、3 か国の国際交流機関（日本・自治体国際化協会、中国・中国人民対外友好協会、韓国・大韓民国市道知事協議会）が主催し、持ち回りにより 1999 年より毎年実施しているものである。毎回数百人の地方政府関係者が出席する大型行事である。

2019 年は、メインテーマ「北東アジア地方政府における地域資源を活かした魅力の創造」の下、10 月 28 日から 31 日までの 4 日間にわたり、愛媛県で開催された。第 22 回の会議は 2021 年に韓国・光州広域市で開催される予定である。

○ 主な内容

- ・日中韓地方政府の交流協力のグッドプラクティスの共有
- ・日中韓地方政府交流協力のあり方及び地方行政に関する懸案事項の討論
- ・日中韓広報ブース及び交流の場の運営
- ・開催都市の地方行政グッドプラクティスの現場視察

■ これまでの実績

年度	回	開催地	メインテーマ
1999	第1回	韓国・ソウル特別市	日中韓自治体間交流協力の増進のための国際会議
2000	第2回	中国・北京市	ニュー・ミレニアムにおける日中韓3か国地方政府間の交流と協力の展望
2001	第3回	日本・東京都	グローバル化の時代における「新たな地域のあり方」をさぐる
2002	第4回	韓国・ソウル特別市	北東アジア地域の経済協力を通じた地方政府の共同発展
2003	第5回	中国・無錫市	地域経済の振興と地域協力の促進における地方自治体国際交流の役割
2004	第6回	日本・新潟県	3か国の相互発展に向けた地域政策のあり方～交流の促進と地域間連携
2005	第7回	韓国・江原道	北東アジア地域の共同発展のための日中韓地方政府の役割
2006	第8回	中国・ハルビン市	北東アジアの友好を促進し、共同発展と繁栄を実現
2007	第9回	日本・奈良県	北東アジアにおける交流の拡大と地方政府の役割
2008	第10回	韓国・全羅南道	地域活性化による発展方案
2009	第11回	中国・長春市	地方政府の交流と協力を強化し、北東アジア地域の共同発展を促進
2010	第12回	日本・長崎県	地域間協力の推進による北東アジア地域の発展
2011	第13回	韓国・全羅北道	地域の特色を活かした北東アジアの地方政府間の交流活性化
2012	第14回	中国・昆明市	交流協力を深め、地方政府の共同発展を促進する
2013	第15回	日本・富山県	地域の特色を生かした取組みと北東アジアの相互発展
2014	第16回	韓国・亀尾市	人文交流の拡大による日中韓交流の活性化
2015	第17回	中国・義烏市	持続可能な都市間交流及び都市の国際化による発展
2016	第18回	日本・岡山市	地方政府交流による北東アジア地方の活性化
2017	第19回	韓国・蔚山広域市	新しいパラダイム提示（発想の転換）を通じた北東アジア地方政府発展施策の模索
2018	第20回	中国・開封市	北東アジア地域における互恵的連携協力体制の構築
2019	第21回	日本・愛媛県	北東アジア地方政府における地域資源を活かした魅力の創造
2021	第22回	韓国・光州市	[未定]

東アジア経済交流推進機構（OEAED）



2018年仁川総会

写真提供
北九州市

90年代初頭から続く経済に特化した日中韓の地域協力

東アジア経済交流推進機構（OEAED）は、日中韓の沿岸11都市により構成される経済交流に特化したプラットフォームである。会員都市の連携、経済交流、相互のネットワークの強化等により、経済活動及び都市間交流の活性化を推進し、環黄海地域における新たな広域経済圏を形成するとともに、東アジア経済圏の発展に貢献することを目的に設立された。

OEAEDでは（1）地域限定版「東アジアFTA」創立推進、（2）環黄海環境モデル地域の創出、（3）ニュービジネス創出システムの構築、（4）環黄海観光ブランド戦略の展開、（5）技術交流・人材育成プラットフォーム形成の5つの重点課題が設定されている。

このプラットフォームは、現在も継続している日中韓の地域交流の中で最も歴史が長いものの一つであり、そのルーツは1991年にまでさかのぼる。同年、環黄海地域における新たな経済圏を形成することを目的として、「東アジア都市会議」及び「東アジア経済人会議」がスタートした。当初は、北九州市・下関市（日本）及び両市の姉妹／友好都市である大連市・青島市（中国）、仁川広域市・釜山広域市（韓国）の6都市で構成した両会議は、その後、天津市・煙台市（中国）、蔚山広域市（韓国）、福岡市（日本）の4都市が加わり、2004年に経済交流に特化したプラットフォームづくりを目指して、日中韓の10都市で東アジア経済交流推進機構が設立され、2014年の熊本市（日本）の加入を経て、現在の11都市体制になった。

機構の組織は、総会・執行委員会・部会・第三者評価委員会・事務局から構成される。

○ 総会

会員都市の行政と経済団体（商工会議所・国際商会）の代表が構成する機構の意思決定機関。会員都市の持ち回りにより開催する。

○ 執行委員会

総会を開催しない年に開催する実務者会議。総会を補佐し、諸課題について協議する。

○ 部会

専門事項を協議し共同事業を実施する機関として4部会を設置している。（国際ビジネス部会、環境部会、観光部会、ロジスティクス部会）

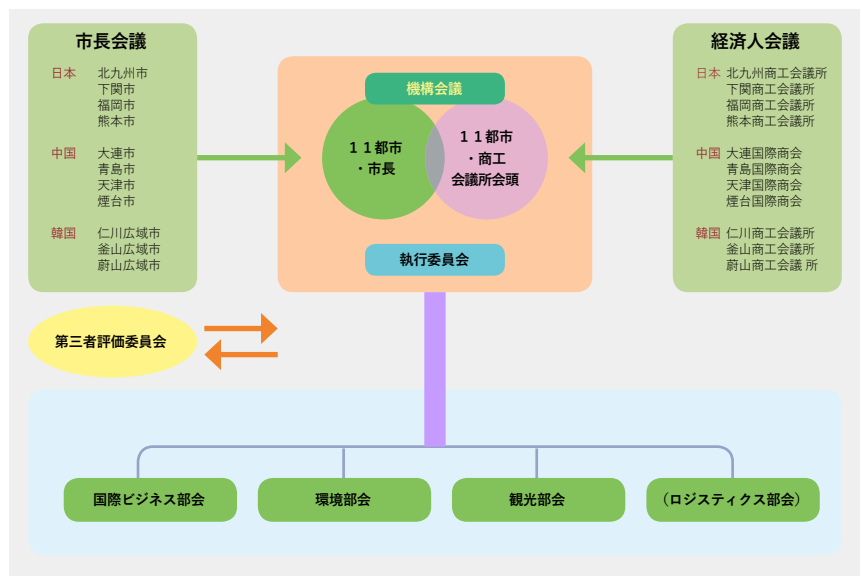
○ 第三者評価委員会

機構活動・運営を有機的に機能させるため、専門的知見かつ客観的視点から助言・評価を行う機関。日中韓各1名の有識者で構成する。

○ 事務局

機構の庶務を行う機関。北九州市・下関市の行政・商工会議所が共同で北九州市に設置。

東アジア経済交流推進機構組織図



■ 過去の機構総会

回	日程	開催地	議題
第1回	2004年11月	日本・北九州市	東アジア経済交流推進機構の設立
第2回	2006年11月	中国・天津市	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の活動実績報告 第三者評価委員会の評価 各都市の市長・商工会議所会長による提案 東アジア都市経済協力に関する天津宣言採択
第3回	2008年11月	韓国・蔚山広域市	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の活動報告 共同プロジェクトの提案と導入 各都市の市長・商工会議所会長の提案 機構の活動と共同プロジェクトに関する第三者評価委員会の評価
第4回	2010年11月	中国・青島市	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の活動報告 共同プロジェクト環黄海アクションの報告 各都市の市長・商工会議所会長の提案発表 環黄海アクションに関するMOU締結 青島宣言採択
第5回	2015年11月	中国・烟台市	<ul style="list-style-type: none"> 各都市行政の代表・商工会議所・国際商会代表による発表 各部会による活動報告 第三者評価委員の選任 烟台宣言採択
第6回	2018年10月	韓国・仁川広域市	<ul style="list-style-type: none"> 各都市の代表による発表 各部会都市の代表による報告 機構改革案 仁川宣言採択
第7回	2021年 [未定]	日本・下関市	

■ 過去の環境部会会議

回	日程	開催地	併催事業／共同プロジェクト
第1回	2004年8月	日本・北九州市	環境産業シンポジウム
第2回	2006年6月	中国・大連市	中国国際環境保護博覧会
第3回	2007年6月	韓国・蔚山広域市	環境セミナー
第4回	2008年10月	日本・下関市	環境セミナー
第5回	2009年8月	韓国・仁川広域市	環境セミナー、仁川世界都市祝典、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第6回	2010年10月	日本・北九州市	エコテクノ2020、九州・韓国・中国環境ビジネス商談会、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第7回	2012年6月	中国・青島市	中国国際循環経済成果貿易博覧会、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第8回	2013年8月	中国・煙台市	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン

第9回	2014年5月	韓国・蔚山広域市	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第10回	2015年10月	日本・北九州市	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第11回	2016年7月	中国・大連市	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第12回	2017年5月	韓国・釜山広域市	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第13回	2018年10月	日本・北九州市	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第14回	2019年11月	中国・青島市	技術交流セミナー、ビジネス商談会、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン

■ 過去の観光部会会議

回	日程	開催地	併催事業／共同プロジェクト
第1回	2005年9月	韓国・釜山市	釜山国際観光展(BITF)、観光ビジネス交流会
第2回	2006年10月	中国・煙台市	観光ビジネス交流会、アジア欧州会合(ASEM)旅行協力発展フォーラム・展覧会
第3回	2007年11月	日本・下関市	国際観光推進シンポジウム、観光ビジネス交流会、10都市ポスター展
第4回	2008年10月	韓国・釜山広域市	世界観光投資サミット(WTIS)、アジア太平洋都市観光振興機構(TPO)会議、観光ビジネス交流会
第5回	2009年8月	中国・青島市	観光ビジネス交流会、「2009環黄海イヤー」スタートイベント、青島国際ビール祭り
第6回	2010年9月	日本・福岡市	産業観光セミナー、「2010環黄海イヤー」2010中国国際旅遊交易会(上海)
第7回	2011年10月	韓国・仁川広域市	ビジネス交流会
第8回	2013年10月	日本・下関市	10都市観光パネル・ポスター展 第26回韓国国際観光展(ソウル)
第9回	2014年9月	中国・天津市	2014中国旅行産業博覧会
第10回	2015年9月	韓国・蔚山広域市	第国際旅行博2015(タイ・バンコク)2/25~3/1 ツーリズムEXPOジャパン(日本・東京)9/24~27
第11回	2016年11月	日本・北九州市	2016ホーチミン市国際旅行博覧会
第12回	2018年11月	中国・大連市	

■ 過去のロジスティック部会会議

回	日程	開催地	併催事業／共同プロジェクト
第1回	2004年7月	韓国・仁川広域市	港湾PRセッション
第2回	2005年7月	中国・青島市	物流ビジネス交流会、 専門家フォーラム
第3回	2006年11月	日本・福岡市	物流ビジネス交流会、 記念講演会
第4回	2007年10月	韓国・釜山広域市	物流企業プレゼンテーション・ 交流会、ワークショップ
第5回	2008年8月	韓国・仁川広域市	ワークショップ物流ビジネス交 流会、仁川世界都市祝典
第6回	2009年11月	中国・天津市	
第7回	2010年10月	日本・北九州市	
第8回	2011年11月	日本・北九州市	
第9回	2014年7月	韓国・釜山広域市	

■ 過去の国際ビジネス部会会議

回	日程	開催地	併催事業／共同プロジェクト
第1回	2014年7月	韓国・釜山広域市	
第2回	2015年7月	中国・青島市	
第3回	2016年11月	日本・北九州市	西日本国際福祉機器展
第4回	2017年10月	韓国・蔚山広域市	
第5回	2018年8月	中国・煙台市	

環黄海經濟・技術交流会議

第18回会議（中国山東省）

写真提供

經濟産業省九州經濟産業局



「環黄海地域經濟圈」形成を目指し、黄海沿岸地域等が参加

「環黄海經濟・技術交流会議」は、日中韓の「黄海」を取り巻く地域からなる經濟圏域（環黄海地域經濟圈）発展・深化を目指す交流プラットフォームである。1999年にフィリピン、2000年にシンガポールで開催されたASEAN+3サミットで日中韓の經濟協力の必要性が認識され、環黄海圈の安定的な協力体制を構築することに合意し、2001年3月から正式に始まった。

同会議は、日本經濟産業省九州經濟産業局、中国商務部アジア司、韓国産業通商資源部通商協力局の3か国政府機関をはじめ、関係する自治体や經濟団体、企業、研究者等が一堂に会し、貿易・投資、技術・人材等の相互協力について話し合うとともに、具体的なビジネスのきっかけをつかむ場として発展している。

○ 参加地域

日本：九州全域（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）

中国：遼寧省、河北省、山東省、江蘇省、北京市、広東省、天津市、上海市の5省3市

韓国：京畿道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尚南道、仁川広域市、大田広域市、光州広域市、釜山広域市の5道4市

■ これまでの開催状況

回	日程	開催地
第1回	2001年3月	日本・福岡県福岡市
第2回	2002年10月	韓国・全羅北道全州市
第3回	2003年9月	中国・山東省威海市
第4回	2004年10月	日本・宮崎県宮崎市
第5回	2005年11月	韓国・大田広域市
第6回	2006年9月	中国・山東省日照市
第7回	2007年11月	日本・熊本県熊本市
第8回	2008年10月	韓国・仁川広域市
第9回	2009年7月	中国・山東省煙台市
第10回	2010年10月	日本・福岡県北九州市
第11回	2011年11月	韓国・大田広域市
第12回	2013年11月	中国・江蘇省連雲港市
第13回	2014年11月	日本・長崎県佐世保市
第14回	2015年11月	韓国・釜山広域市 テーマ「医療・バイオ、新・再生エネルギー、産業団地、人材育成」
第15回	2016年7月	中国・江蘇省塩城市 テーマ「環境に配慮したイノベーションと開放的な融合」
第16回	2017年11月	日本・鹿児島県鹿児島市 テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」
第17回	2018年11月	韓国・全羅北道群山市 テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」
第18回	2019年11月	中国・山東省済寧市 テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」
第19回	2021年 [予定]	日本・熊本県熊本市

韓日中公務員3国協力ワークショップ

▶
2019年ワークショップの
団体写真

写真提供
韓国外交部



韓国外交部主催、日中韓の若手地方公務員の交流の場

「韓日中公務員3国協力ワークショップ」は、①3国協力に対する理解の増進、②3国の地方レベルの協力の発展の方策についての意見交換、③3国の公務員間のネットワーク構築を目的に韓国外交部が2012年から毎年実施しているワークショップである。主な参加者は、韓国の地方都市で国際協力関連業務に携わる韓国公務員と、韓国で勤務又は研修中の日本人及び中国人公務員である。韓国で勤務中の日本・中国の公務員の多くは、姉妹／友好都市関係にある道や市に派遣された日・中の若手地方公務員であり、将来にわたるネットワーク形成と、それを通じた地方間交流に役立っている。

2019年5月に実施された直近のワークショップは慶州で実施され、韓国人38人、日本人15人、中国人35人の計88人が参加した。日中韓三国協力事務局（TCS）の山本事務次長が「3国協力の現況とTCS」とのタイトルで講演を行い、続いて丁相基（チョン・サンギ）元東北アジア協力大使による日中韓の文化比較に関する講演、日中韓の参加公務員による3国協力の事例の発表などが行われた。1泊2日の期間中、文化公演観覧・文化体験活動等も実施された。

■ これまでの開催状況

回	日程	開催地	活動内容
第1回	2012年12月	韓国・ソウル特別市	- 自治体間の協力を通じた3国協力の発展に関する議論 - それぞれの自治体で実施されている3国協力政策を紹介
第2回	2013年9月	韓国・ソウル特別市	- 3国協力の現状を紹介 - 自治体別で3国協力事業を発表 - 3国協力政策に関して討論 - 文化イベント
第3回	2014年5月	韓国・慶州市	- 3国協力の現状と重点の紹介 - 日中韓三国協力事務局の機能と業務紹介 - 3国公務員交流事業の例を紹介 - 文化公演
第4回	2016年6月	韓国・江原道平昌	- 3国協力の現状と日中韓三国協力事務局紹介 - 3国の公務員交流事例の発表と討論 - 平昌オリンピックの準備状況を紹介
第5回	2017年6月	韓国・京畿道広州市	- 3国協力の現状と日中韓三国協力事務局紹介 - 3国公務員交流協力事業例の発表 - 3国文化関連公演
第6回	2018年10月	韓国・江原道江陵市／束草市	- 3国協力の現状と日中韓三国協力事務局紹介 - 3国公務員交流協力事業例の発表と文化公演 - 伝統文化体験と見学プログラム
第7回	2019年5月	韓国・慶州市	- 3国協力の現状と日中韓三国協力事務局紹介 - 3国公務員交流協力事業例の発表と文化公演 - 伝統文化体験と見学プログラム
第8回	2021年[予定]		

協力機関

地方自治体

中国

- ・北京市人民政府
- ・上海市人民政府
- ・吉林省人民政府
- ・江蘇省人民政府
- ・山東省人民政府
- ・陝西省人民政府
- ・遼寧省人民政府
- ・漢中市人民政府
- ・西安市人民政府
- ・青島市人民政府
- ・泉州市人民政府
- ・蘇州市人民政府
- ・大連市人民政府
- ・長沙市人民政府
- ・寧波市人民政府
- ・ハルビン市人民政府
- ・北京市東城区人民政府
- ・臨沂市人民政府
- ・揚州市人民政府

日本

- ・東京都庁
- ・石川県庁
- ・愛媛県庁
- ・神奈川県庁
- ・鳥取県庁
- ・長崎県庁
- ・山口県庁
- ・北九州市役所
- ・京都市役所
- ・新潟市役所
- ・横浜市役所
- ・厚木市役所
- ・金沢市役所
- ・唐津市役所
- ・佐渡市役所
- ・東京都豊島区役所
- ・東京都目黒区役所
- ・奈良市役所

韓国

- ・ソウル特別市庁
- ・仁川広域市庁
- ・光州広域市庁
- ・大邱広域市庁
- ・釜山広域市庁
- ・江原道庁
- ・京畿道庁
- ・慶南道庁
- ・慶北道庁
- ・全北道庁
- ・済州特別自治道庁
- ・軍浦市庁
- ・順天市庁
- ・清州市庁
- ・全州市庁
- ・麗水市庁
- ・昌寧郡庁
- ・ソウル特別市中浪区庁

関係省庁・ 関係機関

中国

- ・文化観光部
- ・中国人民対外友好協会 (CPAFFC)

日本

- ・文化庁
- ・一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR)
- ・経済産業省九州経済産業局
- ・公益財団法人長崎県国際交流協会
- ・東アジア経済交流促進機構 (OEAED)

韓国

- ・文化体育観光部
- ・大韓民国市道知事協議会 (GAOK)
- ・社団法人アジア文化中心城市造成支援フォーラム (ACCF)
- ・昌寧郡牛浦沼トキ事務所
- ・済州島国際訓練センター (JITC)
- ・清州市文化産業振興財団

博物館・図書館 ・大学

中国

- ・首都博物館
- ・瀋陽故宮
- ・旅順博物館
- ・蘇州図書館
- ・曲阜師範大学

日本

- ・江戸東京博物館
- ・北九州市立自然史・歴史博物館 (いのちのたび博物館)
- ・金沢海みらい図書館
- ・長崎大学
- ・山口県立大学

韓国

- ・仁川広域市立博物館
- ・全州市完山図書館
- ・ソウル歴史博物館
- ・慶南大学校

全ての日中韓三国協力事務局出版物は、[日中韓三国協力事務局ホームページ \(www.tcs-asia.org\)](http://www.tcs-asia.org) よりダウンロードが可能です。

調査レポート「**日中韓**地方都市トラアングル交流2020」

2020年8月初版

大韓民国ソウル市鍾路区新門安路82 Sタワー20階 03185

T +82-2-733-4700

F +82-2-733-2525

E tler@tcs-asia.org

編集・取材・資料収集 日中韓三国協力事務局社会・文化部

プロジェクトチーム 孫ハイェスル, 笹尾望美, 林美蓮
館野涼, 王文哲, 文載允 (ムン・ジェユン)

監訳 道上尚史, 曹静, 姜度好
長淵憲二

Copyright © 2020 Trilateral Cooperation Secretariat

無断複製・転載を禁じます。



Trilateral
Cooperation
Secretariat



비매품/무료

93350



9 791188 016457
ISBN 979-11-88016-45-7

www.tcs-asia.org

